SHIN SHIN FUJIN

新眞婦人

三月號

［第廿三號］

THE FIRST MAGAZIN OF WOMAN'S MOVEMENT IN JAPAN.

大正四年三月一日發行（毎月一回一日發行）大正二年四月二十六日（第三種郵便物認可）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

看護婦見習生募集

年齢十八歳以上

學力尋常小學卒業以上

品行方正ニシテ傳染病ヲ有セザル女子ニ限ル

院長診察 月、水、木、金、午前

入院診後應需

林、峰間、兩副長ハ目下當院ニ在勤

電話（本）八八八（病院用）八九八（自宅用）

東洋內科醫院

東京神田駿河臺鈴木町二御茶水橋南

院長 醫學士高田畊安

相州高座郡茅ケ崎町海濱從停車場半里

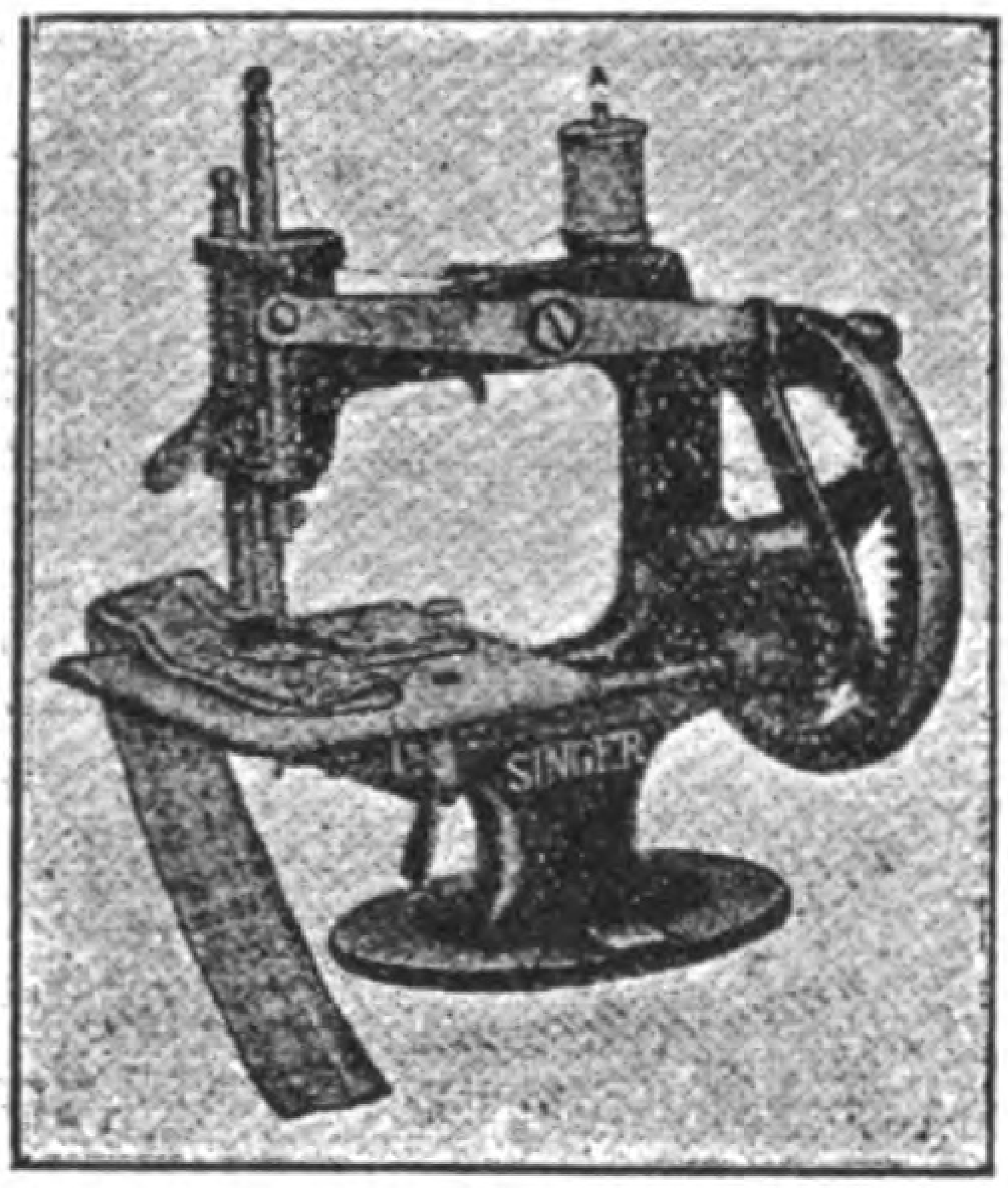
電話ちがさき二番

南湖院

河野、高橋、兩副長ハ目下當院ニ在勤

院長診察土曜日午後。入院、診後應需

小供用ミシン



此ミシンは最新の輸入にして少女諸氏の機械的裁縫の知識を發達せしめ教育上尤も有利なるもの也

御希望ノ方ハ端書カ電話デ御通知次第店員持參御一覽ニ供ス

日本橋區本町二丁目

シンガーミシン販賣店

若林芳郎

電話本局一九八〇番

―（電車は三越前下車）―

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

三月號目次

口繪　瞳　夜美草

結婚前の婦人へ　西川文子…(二)

歐米婦人の見識と抱負　高野重三…(六)

戰亂裡の婦人（寫眞四個入）

現代女詩人の叫　高安月郊…(一一)

赤ン坊研究　高島平三郎…(一三)

人魚の夢　山田きよ…(一六)

寄生蟲を思ふ　日向きむ…(二〇)

蓮の精　中尾淸太郎…(二三)

蛙聲會の記　逢子…(二五)

少年德育上の參考　西川光次郎…(二六)

お里さんの死……但村はつ…(二八)
樋口博士夫人の死に就て……流蘇女…(三四)
戰亂裡の獨乙婦人——世界一の電話國……(三五)
冬ごもり……吉川たみ子…(三五)
新眞婦人短歌……(三七)
氣分劇(より大なる聲)……みをつくし譯…(三八)
駒込ことば……平木白星…(四三)
臺所の革命、蒸溜炊事器……(四六)
乳ののませ方……吉岡彌生…(四七)
生花について……尾崎恒子…(五〇)
吾が足跡……紅花…(五二)
中村高等女學校を訪ふ……文子…(五六)
女と調和……白露…(五六)

三月一日發行

現代療法

オキシヘーラーの出現

オキシヘーラーは磁氣の靈妙なる作用に依り血中酸素の結合を完全にし生理的機能を整調せしむる最新酸素療器なり、之れ本邦唯一の創製品にして斯道大家の實驗上我國人に適したる優良の治療器たる稱讃を博せり乞ふ公正の實驗に徵せられよ

●本器の詳細說明書は御申越次第送呈す（正價三十五圓）

東京市牛込區簞笥町（山伏町停留場前）

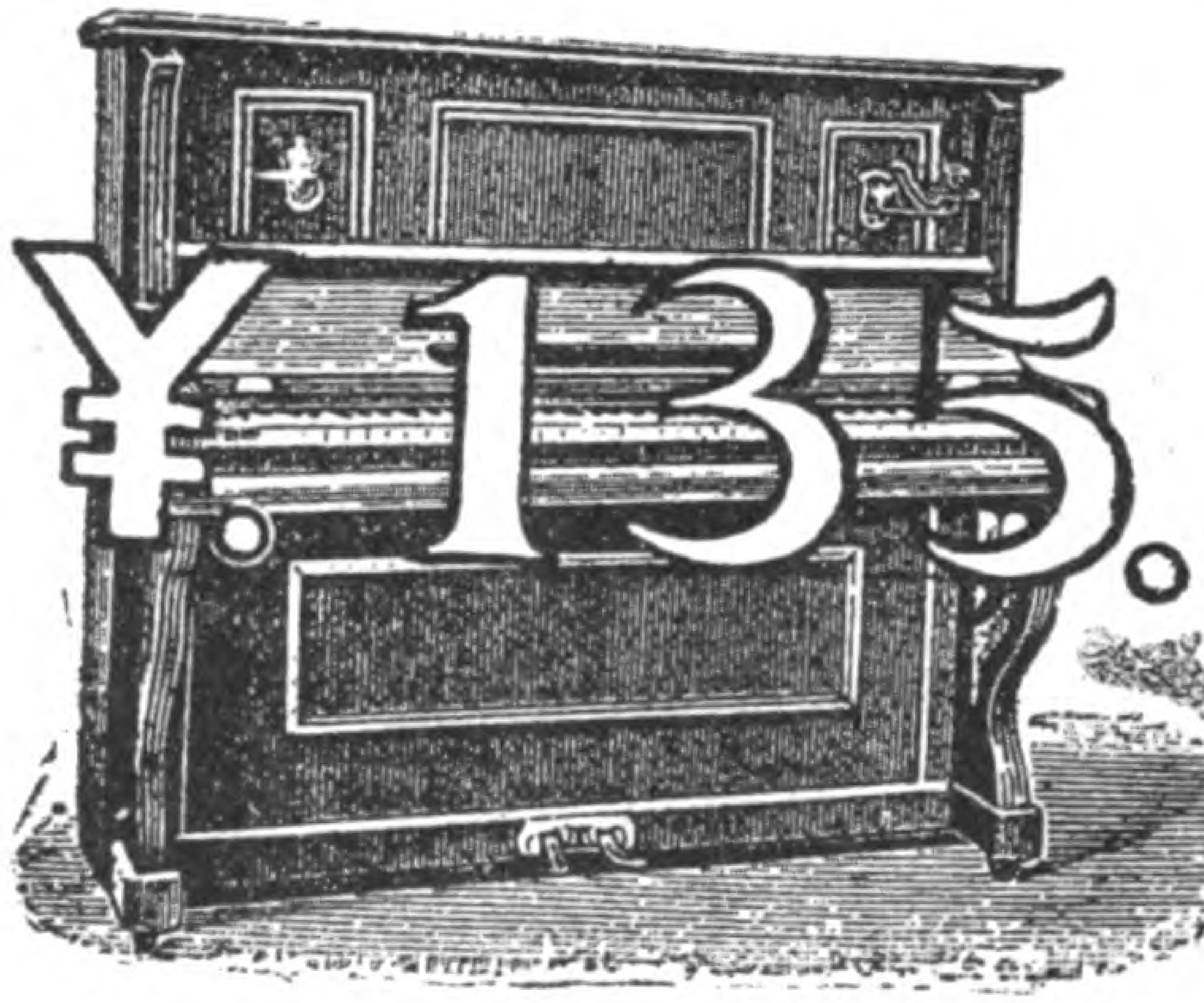
オキシヘーラー奬勵會

前島震太郎

振替東京二七七一二・電話番町四六八九

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

特價百卅五圓



お座敷ピアノの發明

愛孃「お母さんはお琴や三味線がお好きですけれどもピアノはモット良くつてよ、先生もピアノは高尚で優雅で將來樂器はピアノになるとおつしやいました、それに完全な樂譜があるからお琴よりも覺え易くつて稽古も樂で獨習も出來ます、私ピアノが欲しいわ……今息「僕もピアノが好きさお友達の處にも大抵あるよ」……此のお子さん方の御要求に應ぜんため、今度發明しました其名もゆかしき我「ホームピアノ」は容積が少さくつて六疊間に相當し價格も非常に低廉ですから日本の御家庭には誂向であります、それに音色も音量も又外裝も理想的に出來て居りますから實物御覽の上期限の盡きぬ内に是非御申込みを願升

豫約提供

■豫約期限　大正四年三月廿五日限
■豫約臺數　五百臺
■明細書　御申込次第送呈

東京銀座　松本樂器合資會社　電話京橋二二九八

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

理想的の改良香油

本品は時代の要求により生れたる最善なる香油です

花つばき

壹瓶 四拾錢

三個箱入 壹圓廿錢

花つばき

本品に優る香油は現代に於て未だ曾見せしことなし

東京新橋
出雲町角

福原資生堂

電話新橋
三二四番

夜見草

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

新渡戸稲造博士述

人生雑感

最新刊

四六判洋布製
定價八拾錢
郵税金八錢

本書は新渡戸博士が、多年の精神的生活と、ゆたかなる社會的經驗とに基いてあらゆる方面から「人生問題」に對して論述せられたるものゝ選集であります。就中婦人のために講話せられたるものが其多數を領めてゐますから婦人方の修養の糧となり、處世の指針となることは申すまでもありません。あへて此書を坐右におすゝめいたします。

成瀬仁藏先生序
コークランス女史著
林　靜太先生譯

婦人の典型

寫眞版壹拾個挿入
定價金壹圓　郵税八錢

皆田篤實先生著

母の典型

定價五拾錢　郵税六錢

高野重三先生著

婦人問題 早わかり

定價七拾錢　郵税八錢

海老澤亮先生著

家庭と修養

定價七拾錢　郵税八錢

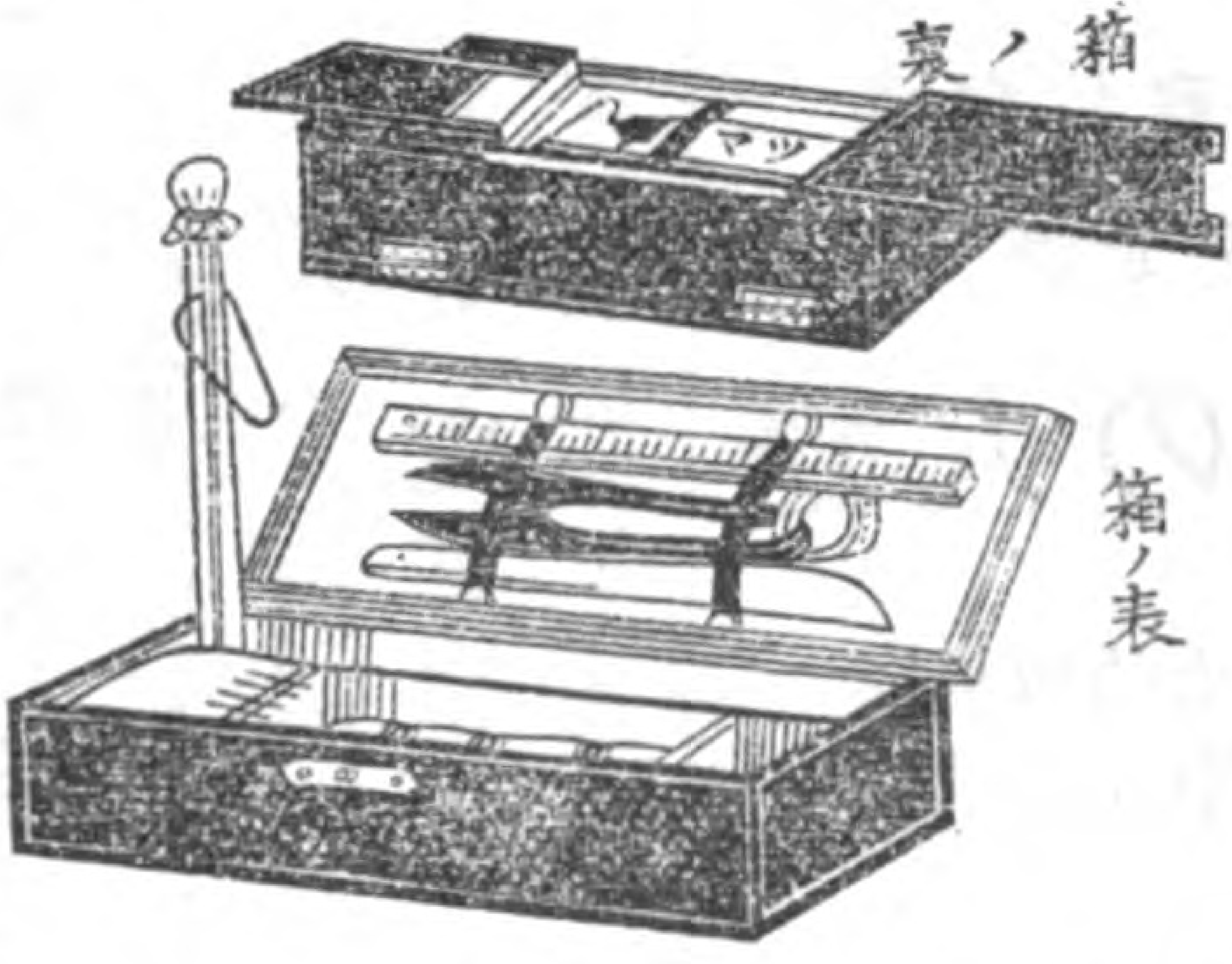
發兌　東京京橋 尾張町　警醒社書店　振替東京 五五三番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

女學生用堅牢無双保險付

特製

小町はり箱



本墨塗製（送料十六錢）定價金壹圓廿錢

褄形、二ッ折尺度、鋏、コテ、ヘラ、くけ臺、針差、針、糸巻、指拔、美麗二重紙箱附

特製（送料八錢）定價金六拾五錢

褄形、二ッ折尺度、鋏、ヘラ、くけ臺、針差、針、糸巻、指拔、美麗二重紙箱附

上製（送料八錢）定價金五拾錢

くけ臺、針差、附屬品留ゞ美麗二重紙箱附

送料市内無料、海外卅錢（不苦郵券代用）

右小町はり箱は體裁圖の如く起伏自在なるくけ臺を取付あり底板は右へ回轉して敷臺となり裁縫用具一式入れてありますから女學生諸孃の携帯に便利で堅牢です尚御婦人方の旅行用家庭用には頗る便利であります

陳列販賣處　新橋　天下堂

製造發賣元　赤坂區青山南町二丁目十六番地　天下堂

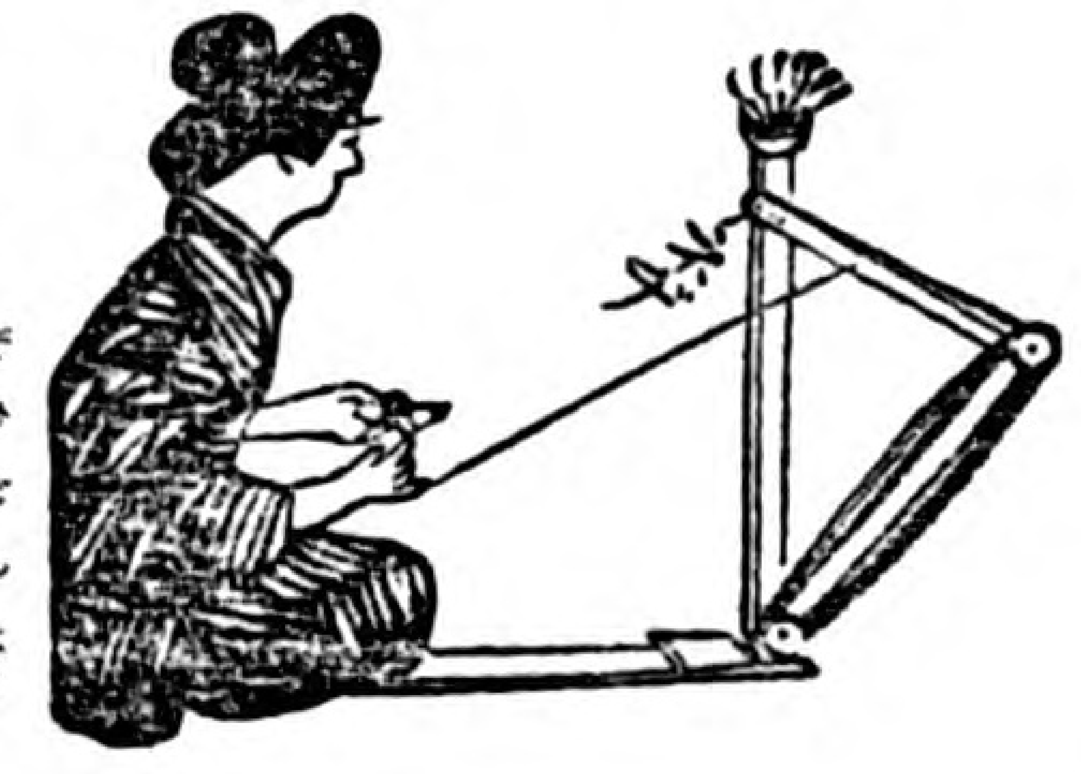
特許 竹中式

絲掛附絎臺

今回弊店に於て發賣致しました絲掛附絎臺は從來の絎臺とは異まして御婦人方の毎日針仕事に綛糸を糸巻に巻き取る時に一々人様の雙腕を煩はし其上に糸が亂れたり「ヨゴレ」たりするが如き不便はありません

使用法

右絲掛付絎臺は下圖の如く下部にある二個の糸掛車を糸の輪の長短に因りて「ネジ」鋲を以て自由に「シメ」糸口を中央にある輪に通して糸巻に巻く時は二個の糸掛車は自由に廻轉して他人のお手を煩はさず糸の亂れるが如き心配なく單獨にて容易に糸巻に巻くことを得て且つ折疊んで仕舞ふことが出來ますから輕便此上もありません是非御使用を願ます



定價

本朱塗製	金七拾錢	美麗箱入
御誂黒塗製	金六拾錢	同
特製	金參拾錢	同
上製	金廿五錢	同
並製	金貳拾錢	同

○市内は壹本にても御一報次第無料配達可仕地方は金拾貳錢申受候

小川町　天下堂

竹中商店

電話芝二八八四番
振替東京三二二二三

面白く為めになる講談雜誌の「親玉」

講談倶樂部

三月號

小さん金五郎（新講談）……泉斜汀
報いの葛籠（新講談）……緒方梅歌
伊勢屋吉兵衛（新講談）……岡柳惟一
後の六代御前（新講談）……夢想兵衛
木堂二人妻（新講談）……筑波四郎
櫻田血染の雪（新講談）……市村俗佛
杉本佐兵衛（浪花節）……京山小圓

黑頭巾（新講談）前田曙山
▼三百圓の大懸賞募集▲
猫魔傳（怪談）磯萍水

演藝評判記……やまと家鳥平
交戰國笑話……田口綠香
八犬傳漫畫……みのる
講談相似反對番付覺……丸
東西名人鑑……編輯局

養宣の館（新講談）……和田天華
棟木の由來（新講談）……大河內翠山
母の死（活動寫眞）……藤田一郎
花見船（落語）……田中烏鷺
阿波の鳴門（仇討）……鳩堂南陵
花川戶助六（俠客）……阪東太郎
姥ケ池の由來（講談）……洞殿司

正價廿五錢 郵稅二錢五厘
前金郵稅共六册壹圓五拾錢

東京本鄕團子阪
講談社
振替口座六六二九

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

美容法研究會新製特賣品

△美容洗粉　（一箱　拾五錢）

熊本特産白小豆製洗粉は古くより婦人間に其効力の偉大なる事を認められて居りました、美容法研究會にては高貴なる香料を混じて更に是を精製し博く發賣致します

△美容香油　（一瓶　參拾錢）

美容香油は最善なる椿油に香料を混じたる香油中の逸品であります、椿油が不乾性を帶びて毛髪を養ふ上に於て此上なき品である事は皆様既に〳〵御存知の筈、一流の他の香油に比し此の如く低廉なる價格を以つて高評に應じ得る事を非常に喜ばしく感じて居ります

△萬能キハツ　（一瓶　拾八錢）

萬能キハツは衣類の襟垢、油ジミ、白粉ジミ等を生地を少しも傷めずして美しく取り去る事は舶來の石油ベンヂン以上の力をもつて居ります、家庭日用必須品として又は氣のきいた御進物用として江湖の御愛用を切に希望致します

婦人販賣員

婦人職業問題の聲大層八釜しくなつて來た今日資本をかけず堅實なる自己の努力によつて相當收入の道を講ぜんとせらるる方は新眞婦人社代理部へ御申込あれ

東京市芝區公園地十五號十一
代理部事務取扱
主任　小口みち

脳病精神病専門

東京巣鴨町四丁目巣鴨電車終點先二丁

巣鴨脳病院

（長電話番町三〇九八）

院長　醫學博士　石川貞吉

入院隨意

らい病

患者と血統者に急告す

秘密療法及豫防新書を送費二錢送れば無代送呈す一日遲れば千日の悔あり今直に申込め秘送は小包料八錢要

東京下谷車坂町五二　福田秋水

脳神經精神病

東京赤坂　帝國脳病院改

青山脳病院

院長ドクトルメヂチーネ　齋藤紀一

醫學士　三名

田澤醫學士

特長　電芝二七四五　電芝二六六五　電芝三四〇六

皮膚病一切　たむし～の妙藥

タムシン

東京市京橋區入舟町四丁目

本舖　橋本進世堂

脳病精神病専門

東京田端　電話下谷二二〇二番

東京脳病院

院長　後藤省吾

醫學士　黒澤良臣

營業品目

金銀盃、木盃
寶石入指輪
金銀白金ブローチ、ピン、金銀男女用時計、鎖
金銀製眼鏡、巻煙草入
美術金銀銅製花瓶置物
各種徽章、賞牌調製

（詳細目録定價表無代送呈仕候）

東京下谷池之端仲町

玉寶堂

電話下谷長 九六五 一二四四 番

『子宮血の道』月經不順が

ウソかの如く全治して何人も驚嘆せる不思議神藥あり

小原 **安全湯** 二日分參拾錢 七日分九拾五錢 送料四錢

月經帶の良否鑑別法

月經帶の最良品は如何なる點にありや、曰く完全なる吸收具を備ふるにあり、吸收具を備へざる月經帶は、『越中褌』や『猿股』と撰ぶ所なし。何ぞ高金を出して買ふの要あらんや。是れ歐米婦人が『サニタリータヲル』と云ふ吸收具を常に手放さゝる所以也。夫れ消毒綿と雖も挿入防經の大害あるは醫家の均く宣言する所。而して月經帶の種類多き中にて最完全なる吸收具を備ふるは、獨り藤川學士發明の『安全帶』あるのみ。以て本品が如何に衛生を重んずる貴婦人令孃方に歡迎せらるるかを知るべし。

定價（安全帶一筋、甲壹圓貳拾錢、乙八拾錢、並五拾錢（一筋にて永年使へ升）安全衣一打金四拾錢●送料、一組（帶衣共）金八錢、一組毎に貳錢増し、代金引替小包料廿貳錢、臺、外國、樺、清、鮮、金卅錢）

本舖（東京下谷池端七軒町壹、大學病院裏通 振替東京一六九二〇番）小原安全堂

支舖（大阪市西區江戸堀下通三の三九 振替大阪壹壹四六壹番）洋々堂分店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

西川光次郎著

偉人の戀物語

定價七拾錢
郵稅六錢

目次大要

一、偉人の介抱人。二、意外な人々の戀物語。三、革命渦中の戀物語。四、英雄の弱點。五、妻を崇拜せし偉人。六、リンカーンとリー將軍。七、ジョンブライトとグランドストン。八、戀文に關する逸話九、大政治家ペリクリスを動かせし婦人。十、偉人の母。十一、中世紀と婦人の力。十二、處女崇拜。十三、婦人なしに何事も出來ざりし時代。十四、奴隷廢止に現はれし婦人の力。十五、情の上より見たる伊太利建國の三傑。十六、普佛戰爭半面史。十七、最近世界の進歩と婦人の力。十八、源平戀物語。十九、戀を中心として見たる建武中興史。廿、情の秀吉と情の家康。廿一、宗教と婦人の力。廿二、赤穗義士背後の女性。廿三、王政維新と婦人の力。廿四、明治史と婦人の力。

發行所

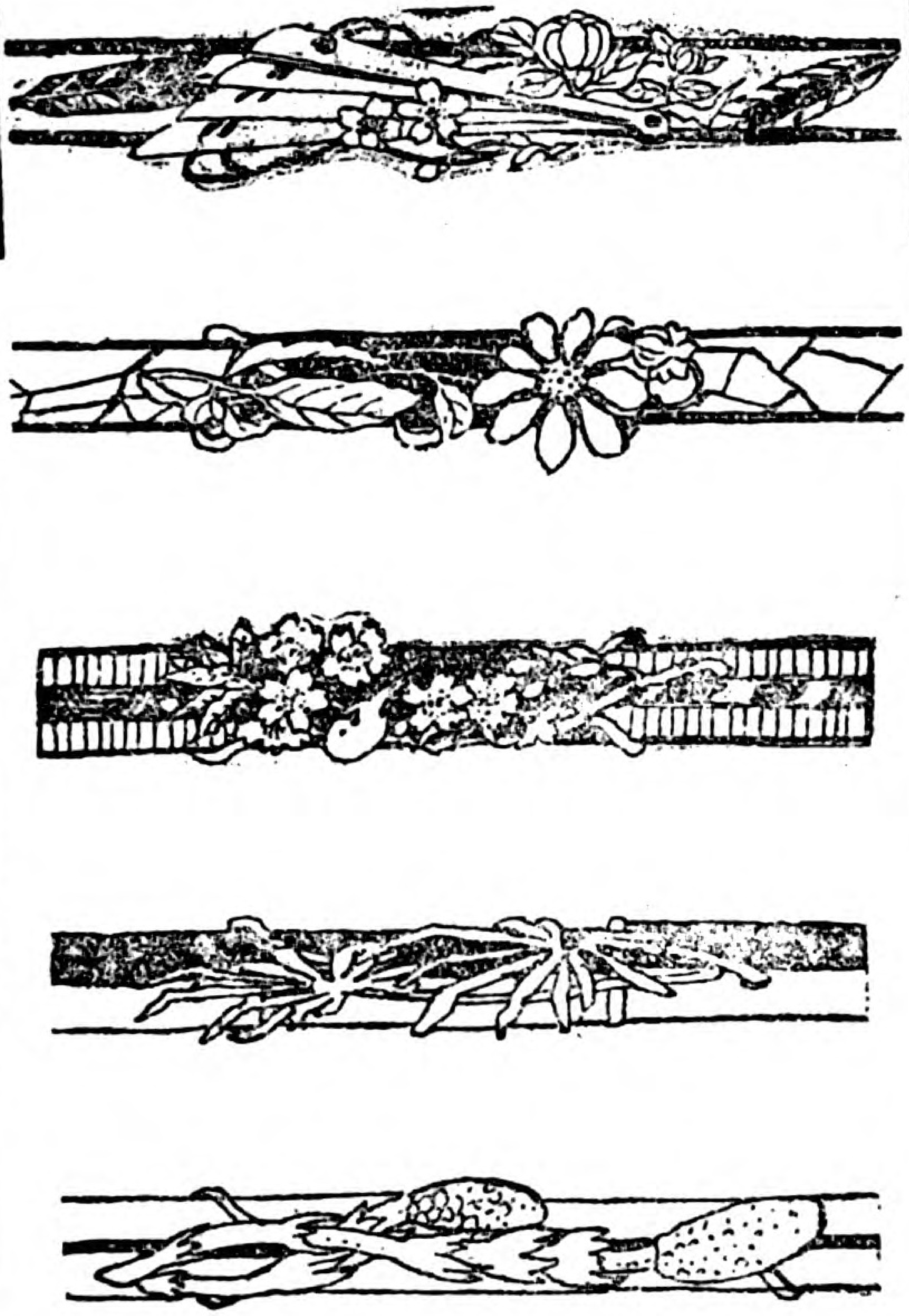
東京市本郷駒込坂下町四八
振替東京三九三〇

大日本雄辯會

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

新様式金製帯留

特製季節向
花摸様彫刻



輕装なる春衣につれて、御婦人が帯留に美を表し、粋を競ふの季節は差迫り候處江湖の御装身具と申せば、常に新意匠に精製、御高需多き當銀座尾張町白牡丹本店が、今回特製實用新案出願中の品は、上掲の金製帯留に御座候。十八金に白金を交へたる花卉摸様彫刻ながら、在來の裏座を省き、其儘適宜なる紐に取附けらるゝ様に調製、從つて目方も輕く、價は殊更低廉に、十五圓以上廿圓にて御嗜好の品々、御下命に應じ候間、御變らず御引立御高需の程奉願上候。

東京白牡丹本店

銀座尾張町
松田幸次郎
（振替口座四三九七番）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

新眞婦人

三月號（第廿三號）

本誌の抱負

婦人の自覺を促すこと
婦人の職業を奬勵すること
家庭を立憲的組織と爲すこと
婦人倶樂部を設立すること

都市を、社會を、國家を母性化するに努めると、此等の希望を達せんが爲めに、私共は其の任に堪へ得るの婦人を養成せんことに、微力を致さんとして居るものであります。

されば本誌は、婦人の修養、家庭の改善、婦人の社會事業などに關する記事、論文を掲載し斯種の雜誌としては、日本唯一のものであります。

又歐米婦人運動の雜誌を多數に取りよせ、其等の粹を拔きて、常に譯載に努めて居ます、之れ日本婦人も世界の大勢に後れぬようとの微意からであります。

日本婦人の進歩を欲する男女は來りて本誌の發展に助力せられよ。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

結婚前の婦人へ

西川文子

私はこれまで家庭の根本は神聖なる愛情であり、理想的夫婦はもとより純愛にまたなければならぬ、青年男女の相思の間に於ける敬愛の精神は、始終一貫するものであると云ふ、單純なる戀愛論を稱へて來ました勿論今日と雖も愛情なき結婚の不幸であり、罪惡の源泉であり、自己に不忠實の限りであることを信じて居ます。けれども愛情を基礎にしたからとて、今一つ考へなければならぬ、重大なるものゝある事を、忘れてはならぬと思ひます。愛に始まつた家庭にも、豫想以外に樂しくない。のみならず夫も妻も不滿に、寂寞に堪へられぬ樣で居るのが往々あります。「そして夫人は夫のする事と云へば必らず不贊成で直ぐ抗議を云ひたくなり、夫は又どうして自分の意志がかくも通じないかと嘆いて居られます。かう云ふ家庭にある方が能く『私達ももと〱はかうでもなかつた、好いた同志が一しよになつたのに、どうしてゞしやう、本當に結婚は戀愛の墓場である。現實は呪ふべきである』と云はれるのを聞きます。さうかと思へば又さのみ愛情のあるらしくも無かつた人達が、事務的ではあるが、衝突もせず、すら〱と水の流るる樣に事の運んで行く家庭もあります。それ等の人達を見るにつけ、私は是迄の愛情一本調子の自己の感情任せの議論通りには行かない、まして世間狹いものゝ、あまり獨斷に過ぎるのはいけないと思ひました。

滯りなく日暮しが出來るからとて妙味の無い、只事務的の生活は無論讃美したくありませんが、內に深い濃厚な愛の泉がありながら、充分汲み盡くすべのないのもどんなに心苦しいものか知れません。愛情が

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ありながら、又誰れに遠慮しなければならぬと云ふ事のない自己の家庭でありながら、どうしてそんなに慊らなくなるのでしやう、私はそれには深い理由がなくてはならぬと思ひます。愛情と云ふものが一生消えるものでも薄らぐものでもないとしても、永い年月を只單純な愛と云ふ一字につゞめる事は不可能だからです只愛があれば勉强も仕事も仕なくても日月が過ぎると云ふものではありません。愛に醉うて居る一時は戀人の手になつたものなれば、心のある生煮飯も、こげ臭い御馳走もうれしく食べられるでしやうが、そんな事が永く耐へられるものではありません。若い時殊に社會にふれて見ない學生時代に趣味も嗜好も略ぼ同じい所から、相槌を打ち、共鳴し話し合つた上句、相愛して結婚したものも、だん〳〵各の個性が發達して來ると相違の點も出來て相離れる所のあるに至るものです、誰しも結婚以前に、自己の天賦の才を能く自覺しなければ、屹度さうした悲哀に逢はなければならぬのです。例へば藝術家に商人たる天才を備へた人が結婚したとしたらどうでしやう。夫からは自分に理解のない取るにも足らぬ下らぬもの丶樣に卑しめられるでしやう、それが商人とさへ結婚すれば立派に自己の天才を發揮する事が出來るのです。

或家庭では夫人は非常に商賈好きの方であるが、夫が學者である爲めに、夫の體面をおもつて商賈も出來ず、さうかと云つて夫人には學者たる夫について行く丈けの思想もなく、誠に手持無沙汰で毎日所在なさに苦しんでゐられます。つまり人生は話をし合つたりお芝居を見に行つたりする樣な、遊び事ばかりでは居られない、希望ある事業とか、研究とか仕事と云ふものを互に勵まねば、樂しみも望みもないからです。働くと云ふ事は人間の本能なのです。それに世の夫たる人の中には夫人を自己の小間使位にしか考へて居ない人が多い、自分に不自由させぬ樣に盡すのを最高の目的として、直ぐ傍らにある炭を火鉢に入れるにも、遠方にある夫人を呼んでさせると云つた樣な風があります。又夫人も夫の犧牲になり、夫を守り立て丶行く事

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を最高の理想と考へてゐられる方がありますが、一寸見ればそれは大變美くしい樣に見えますが、もつと高くもつと廣い立場から見ると、一種の罪惡です、自己に立派な天分があり、又生產力もあるのに、何も爲ない附屬物として甘んじて居るのは全く不德です。先例の反對に若し藝術的天才ある婦人が商人に結婚した場合はどうでしやう、同じく自己の天才を充分に現はす事が出來ないのみならず、從來の習慣として男子より婦人の方が弱い爲めに、かう云ふ場合には婦人が損をして來たのです、夫人自らの才はためても夫の職業を育てゝ行く樣にと務めたものです、それで若し商人の夫人に藝術的天才ある婦人が結婚しても、充分自己の才を延ばし得ない丈けで、外形は立派に納まつては行つたのですが、其の自己を滅した上に夫に理解されない心中の寂寞さはどんなでしやう。前例よりは遙かに悲慘です。それも從前の婦人には無我になつて夫について行く事も出來たでしやうが、益々自我の發達して行く是れらの婦人にはさうは出來ないし、又さうするのは恐ろしく自己に不忠實な生活と云はなければなりません。それも一時的の婚約時代とか未婚時代には互に趣味が一緒である樣に振舞ふ事も出來ましやうが、永々の日常生活には虛飾虛僞の續かう筈がありません。若し別々の趣味を持つたもの同志でも、別々に自由に進んで行く丈けの寬容があらば、却つて趣味が廣くなつていゝかも知れませんが、眞に一心同體となるのには、今のまゝの男子の心、婦人の心では到底不可能な事です、又若い時にはまだ潜在して居て自己にも自己の天分が分らないものですが、年を重ねるに從つて現はれて來るのです、それにつけてもあまり早婚はよくないのです、略ぼ自己の天才も芽ざして來て、自ら自己の才能をよく解剖し、觀察し自覺するに至つてから結婚してもおそくありません。

男子の一生が只結婚が目的でない樣に、婦人も結婚し妻となり母となるのみが目的ではないのです、自己の天賦の才を充分發揮しなくては、寂寞の感に堪へなくなるものです。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

それにつけても、婦人にも職業教育の必要と云ふ事を感じます。自己の天賦の才を認め、先つ自己に何が適當するかと云ふ事を熟考した上に、適當なる職業教育を受ける事が最も必要であるのです。例へば師範學校を出て獨身時代に學校の教師を務めて居た婦人が、結婚しても、小供が八人九人も出來ても公職に就てゐらるゝのでも、髮結、產婆看護婦、女醫など職業を持つた婦人がやはり一生それにたづさはつてゐて決して家庭の妨げにならないのでも分ります。又社會に接觸して居ると云ふ事は自己を絕えず教育してゐる事にもなります。それが娘時代に職業教育を受けず、只結婚そのものを職業ででもあるかの樣に考へてゐる婦人は結婚後暫らくは家事上の務めにまぎれてもゐられませう、又小供でも出來其の世話をしてゐれば、つれ〴〵に困ると云ふ樣な事もありますまいが、小供がなかつたり、又小供がやゝ成長して自己の心身に暇が出來てから、さて何か仕たいと思つても、今更何を習ふのもと云ふ氣になり、まとまらなかつたり、甞て職業をした經驗のない爲めに、自己の腕に對して確信を持つ事も出來ず。一生自己の立場に迷ふ樣な事になります。だから先づ自己に適する職業を撰び、實地にも當つて見て、それに衝突しない理想的結婚をすると云ふ事が最もよろしい。さうすれば一時若し家庭の業務の繁忙な爲めに、職業を棄てる樣な事があつても、小供の成長した後や不幸に陷つた場合に迷ふ樣な事はありません。

私は、色々の御婦人に接して、お話を承はり又私の意見も申上げたいと望んで居ますから、何にか御相談のある方は、御出で下されても或は手紙で日時を定めて私が出張してもよろしい。其外家庭で、近所の御婦人の御集りに成る場合に、出演を請はるれば、悦んで參上します。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

歐米婦人の見識と抱負

高野重三

日本の婦人に比すれば遺憾ながら歐米の婦人等は實に見上げたものです、此大戰爭の眞只中に於ても婦人の天下國家に對する意氣込と其議論は誠に盛んなものであります。其見識と云ひ、其抱負と云ひ實に驚嘆に値するのであります。左に名著「婦人と經濟」の著者として有名なるギルマン夫人の主幹せる雜誌「フオア、ランナー」の最近號に掲載せられたる婦人の議論の中二つ丈け見本に其の大略を譯して御覽に入れませう。

婦人論か一夫多妻主義か

男子が今日なしつゝある如く、互に殺し合つて居れば、數理上婦人の數大に男子の數にまさるに至るは明かである斯くなりても未だ一夫一婦の制度が理想としてさへも望まれず、男子は今日の如く直打あるものでなかつた一夫多妻主義の行はれし時代にはソレ程不都合でなかつたかも知れない。何せと云ふに其時分は多數の婦人は皆働らき而して一夫一婦で事が足りたからである。今日は之れに異り、一夫多妻主義は非常の惡事として見らるゝに至つて居る上に、今は男子は働人であり又私共の文明の建設者であり支配者である。私共は國家の爲めに彼等の働を失ふ事能はざること、尙ほ夫として又父として彼等を失ふ事能はざると同じである。されば一人の男子殺さるゝ時、必らず一人の夫なき、子を生まざる婦人が取り殘さるゝワケである相手なくして婦人は結婚する事が出來ない、既に結婚が出來なければ子を生む事も出來ない。と云つて今更に一夫多妻制度を再興するワケにも行かぬではないか嗚一人の男子殺さるゝ毎に一人の婦人は取り殘され、幾十萬の男子殺さるゝ毎に幾十萬の婦人は結婚せずして取り殘さるゝのである。此の餘れる婦人を如何にせんとするか。男子が殺さるゝの時其墓に婦人の希望も倶に携へ行くに當り此等の取り殘されし婦人に母たり

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

又家庭の義務を說くも何の益あらんや。若き兵卒の墓には妻たり母たり澤山の子供を有する家族たるの望も倶に葬られあるにあらずや。

私共は事實は事實として之れに對せざるを得ない。現今歐洲にては無數の婦人は夫もなく、子供もなく、又家庭もなく取り殘されて居る。さて昔の一夫多妻制度を再興するワケにも行かず、又働なき婦人の便利なる最後の方法たる賣淫も出來ぬとせば、此等の婦人は如何に爲す可きや。是れ實に實際的の大問題である勿論彼等は彼等が當然享く可き性慾的の生活を忘れて深く社會的生活に突入し、かくしてより大なる利益の爲めにより小なる損失を忍ばざるを得まい。單に一人の男子を愛するより全人類を愛するはより大なる事である。單に己が生みし子供等を愛するよりは世界の總ての子供等を愛するはより大なる事である。單に己が家族に奉仕するよりは己が住する都市又は國家又は民族に奉仕するはヨリ大なる事である。勿論兩者共愛するの機會に接する者は實に幸福であるが、寡婦となりて再び結婚するの機會を得ざるもの、及び初めより一夫一婦的に結婚する能はざるものは、結婚の幸福を味ふ能はざる上に自活の爲めにさへも働かざるを得ない、而して自活丈にては婦人の衷心を滿足せしむる事が出來ない、今日其の自然に發現する路を塞がれ居る精力と又自分自身の子供の上に注ぐことの出來ない深き母たる愛は、何處にか其發現の路を求めねばならない。私は世界の爲めに奉仕し人類の向上を助くる總ての働にたづさはることの外に其路がないと思ふ。男子の如く婦人も亦た人類に關する總ての正當なる活動に其發現を見出し、それに彼等の全心を置き、それに彼等の生命を注ぎ、以つて彼等の愛と奉仕の慾望を滿足せしむ可きである。若し彼等にしてかゝる廣き心を以つて世の爲め人の爲め盡さば、彼等の愛は酬いられよう。若し彼等何者よりも子供を好まば他の婦人の子供等則はち世界の子供等は彼等の愛するに委せられよう。之等の子供等も亦た彼等を愛するに至るであらう。子供等の愛を得るは難き事ではない。今日鮮血淋

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

滿たる歐洲の戰場に己が一切の慾望を今戰死せんとする男子と倶に葬り去りつゝある幾十百萬の婦人の裡より清新崇高なる、『世界的母性』の精神が起るに至るであらう。冀くは彼等をして一致團結して互に相助け合ふ大團體を組織せしめよ。戰により生せし寡婦と寡婦と運命を同じくせざるを得ざる處女等は、總て其の共通の悲に耐へ、共通の目的によりて强められ、又共通の希望によりて勵まさる可きである。歐洲の望も世界の望も益々其婦人の上に横はれり。男子の未だ爲さゞりし事を彼等は爲す可きなり。男子の失敗せし所に彼等は成功す可きなり。男子によりて築かれし以前の文明の產物たる苦痛、不和、憎惡、貪慾、不正、慢心、慾望は皆彼等によりて永遠に拭ひ去らる可きなり。過去の歷史は男子の爭闘の歷史なり。冀くは將來の歷史をして婦人の奉仕の歷史たらしめよ。歐洲の婦人をして今日の苦痛の坩堝より出で來り、總ての小異を捨てて大なる議會を組織せしめよ。其處にて彼等の子孫の爲めに今日の世界の耻づ可き行爲の時代を止めて、新らしきより善き時代を來らしめん事を議決せしめよ。血と言語を同ふして同氣相親しみ易き國境は互に相侵す事なからしめ、而して其國境内に於て養ひ得る以上に人口を增加せしめざる樣其數を女子をして定めしめよ。人口の壓迫は其賢き自覺したる共同の母性によりて安排せしめ、之れを制限せしめず人工的避姙法によりて惡行や疾病の鼓舞者によらずして、自制によりて之れを齊しむ可きである。かくして淘汰により又敎育により無益の情慾に耽けらざる賢き「父性」を自覺する新らしき人種は起るに至るであらう。かくして生れ來りし新らしき人種は又新らしき方法によりて敎育せしめねばならぬ。最早吾人の子孫の心に古き爭闘の暗黑なる記錄を注入す可きでない。之等の憐れむ可き罪惡や失敗の歷史にあらずして、世界の進步の歷史を彼等に敎ゆ可きである。總て吾人を助け又吾人を互に結付くる吾人の偉大なる世界的奉任、發明及び發見等を敎ゆ可きである。吾人の耻づ可き過去は深く葬り去り又忘れ去り、而して共通の言語と共通の歷史を有する

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

新らしき世界を建設せしめよ。

青島戰後戰死者の未亡人に關する記事議論等大分新聞雜誌等に散見せしも、不幸にして未だ前陳の如き調子高き議論を我國婦人の口又は筆より知る事を得ざりしは、私共の深く遺憾とする所です。

右に比し更に具體的なるは「婦人運動に於ける新刺戟」と云ふのであつて其大意は左の通りであります。

婦人運動に於ける新刺戟

一見したる所によれば男子によりて建設せられたる文明は全く破壞せられた樣だ。ソコデ吾人は現今の社會の仕組に更に新らしき分子を要する事となつた。「母性」の一大使命により結合し人生を熱心に保護する「婦人の團結」を要する事となつた。世界の婦人は一同に此の重大責任の新らしき深き且つ突然なる確信に覺醒せざる可からざることとなつた。婦人の子孫たる「人類」を保護せん爲め世界を管理するに當り婦人の言論及び其手を忽ち要することとなつた。即ち

(一)總ての政府をして婦人をして男子と同權たらしめん爲め輿論を敎育し且つ組織する事。

(二)内治にヨリ多く民本主義を適用する樣總ての政府を勸誘する事。

(三)國際間の同盟も戰爭も婦人を含有したる國民一般の協贊を經ずしてはなされざる可き事。

(四)軍器及び軍需品一切は政府の專造となす可き事。

(五)幸に今度の戰爭に於て聯合軍が勝利を得んには各國共今度の戰爭を以つて戰爭なるものを打切となすの方針を取る事。而して國土の讓與は婦人を含有したる國民一般の協贊なくしては行はざる事。

(六)ヘーグの平和會議へ婦人も其代表者を送る可き事

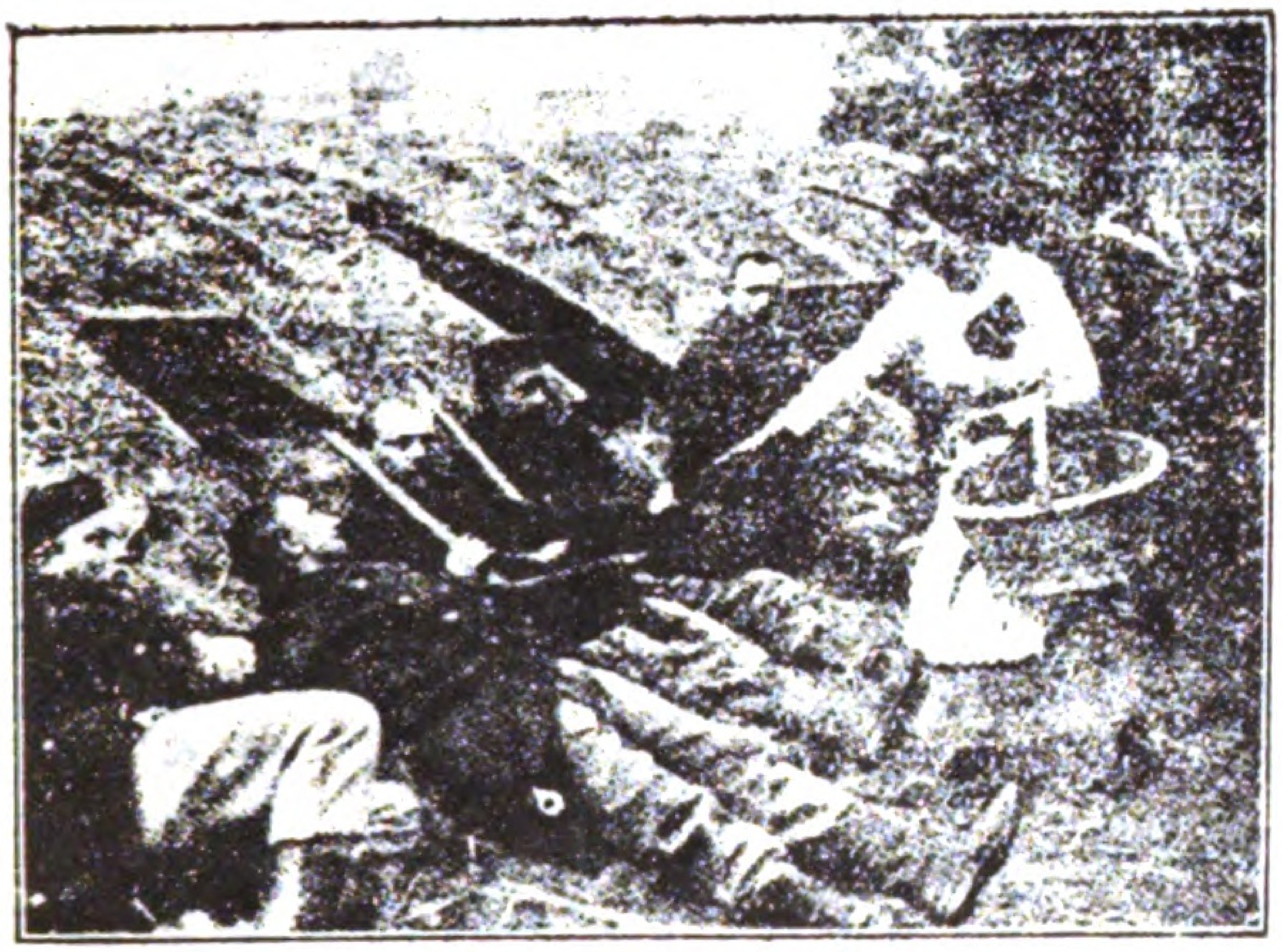
(七)何等かの形式により世界各國共弱國を保護す可事

(八)國際裁判所を設立して國際間の紛議を審理せしむ可き事。

の八ケ條の實行を要する事となつた。

右の内今日に始まらず以前より唱へられし事項もあり。又今俄かに之れが實行の出來ざる者もありませう。然し兎に角男子にのみ人類の運命を委托して安心して居られざる事を今度と云ふ今度は泌み〴〵感じ奮然として自ら蹶起せんとする西洋婦人の意氣込と自信は實に敬服の外はありませぬ。か〻る事を見聞する毎に私は世界の一等國を以つて自任して居る我國婦人の意氣地なし、不がいなしに深く愧づるのであります。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



佛蘭西農家の少女が危險を冒して塹壕の兵士に果實を分與しつゝある所

英國の少女が之れを賣りて水兵に慰問袋を送らんと人形を造りつゝある所

女巡査

歐州今回の大亂にて男子は毎日、多く負傷しつゝあるも、婦人は鬪に示せるが如く、戰亂の裡面にありて各方面に活動し、凡ての婦人病は治療されつゝありと云ふ。

婦人義勇隊備隊

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

現代女詩人の叫

高安月郊

一

チナイダ・ヒッピウス

ロシアの生れ、小説家メレイコウスキイの妻である。しかし其肖像を見ると男裝して髪も短く刈つてゐる。さては其情は何を歌ふか。

吾窓は地の上に高し、高し、我は唯空に輝く暖照を見る。
秋の空は色も無く、すさまし、鉛の様にすさまし。
戀無く、愛無く、情無し。
立燃ゆる、いつも燃ゆる渇望は大なり。我は或物を求む、しかも我はそれを知らず、それを知らず……
燃ゆる望の日は過ぐ、消行く。靈は一の訪を待つ、徵を待つ、徵を待つ。
成らぬ事も何成さるべし、成されねばならず、我はそれを愛無き天に願はん、天に願はん。
我は破られたる、忘られたる僞の盟を思ふ。我は誰も占めず、未一人も占めぬ其物を求む。
其物は何？彼自身も未知らぬとは？、知らぬとは！

二

リカアダ・フッフ

ブラウンシュワイグに生まれて、チユリヒの圖書館の書記となり、「若きルドルフ・ウルスロイの思出」、「凱旋町から」等數篇の小説を出したが、詩集に、

一切然らずは皆無

戰はんが爲に我はそこにあり、我は休を望まず、衰滅が吾運なりとも嘆かじ、墓の懐に沈むとも土もて吾

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

目掩はん。唯棄權を說く勿れ。さてはいづくに戰の叫に堪へ、長き望もて思を引きしぞ。遂に不鬪したる事より破るゝ爲にはあらず。砂に走るを見、手握り占めて喜んで委ぬる爲にもあらず。否、我は强ひられたる務として此世を活きず、いかなる神の賞をも求めず戰の價取らるゝをみば、武器を吾身に打回して——さて行くべし。

これはブラウングやロセッチイ等の思ひもよらぬ所、ブランドの妻になつても滿足せぬであらう。彼は何を求めるか。

我に永久の靑年の光を與へよ。我に永久の生の力を與へよ。飛行く「時の踊」に永久に活動する情を與へよ。

智識の海より飽くまで深き息に飮ましめよ。一度吾魂に十分の愛を與へよ、憎を與へよ。

充實の露を吾心に流込ましめよ、遂にそれも自流れて泡立つ幸と溢るゝまで。

しかしそれは一生の中にえられるであらうか。

秋

秋なり、君は木の葉の落つを見るか。凋むもの丶樣ならで潔く共に死に行かん——くちつけて來よ。

遠くあなたにかけちがふ雲よ、ものくるはしくも珠を酒に泡立たすは奢れるかな。

されど總て一息にほすは尙氣高し。最も大に滿たさん事、そは求むる者に決して十分ならぬなるべし。

空しき盃を碎いて頂より墓に行かん、損はれぬ永久の神の樣に笑つて!

遂に悲しんで、しかも笑つて死なうとはサッフォより幸であらうか。不幸であらうか。

三

マリア・ヤニッチエック

ウキーン附近に生まれて處々轉々、「詩集」「愛の風に」「古代から」等を出し

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

た。

牛に燃立つ蠟燭を持つて、光りゆらぐ旗を持つて我等は汝に向つて進む、新しき人に！

冠無き王、法無き立法者、殿堂を要せぬ信者！手に燃立つ蠟燭を持つて、光りゆらぐ旗を持つて我等は汝に對して進む。

汝は我等に白き衣を贈り、清き者の高貴なる笑を我等の唇に置かん。我等の目に散り亂るゝ力を與へん、そは自信する者こそ持て。

汝の意思の火は暗き人間の奴隷もつ者、總てを驅使する豪族に神聖の炎もて不正を否まん。

神の兒の様に鞭もて威す法に依つて善に撻たれず、人生の花園にさまよはん。

手に燃立つ蠟燭を持つて、光りゆらぐ旗を持つて我等は汝に向つて進む、新しき人に！

新しき人是實に今の男女の幻であるがそれはどんな人？イブセンも精しくは描きえず、ニイッチエも明に說きえず、女詩人の夢こそ生まねばならぬ。しかし先何から感受するであらうか。

赤ン坊研究

高島平三郎

今から百三十年ばかり前に、獨逸のフレードリイヒ・チーデマンと云ふ學者が、自分の小供に就て精密に、赤ん坊の精神作用を研究し、『小供の觀察』と題して出版した、之れが赤ん坊研究の嚆矢です。

此の人に次で、赤ん坊を研究したのは、英國のダーウキンで、ダーウキンの『小供の精神の發達』と云ふ論文は、千八百七十七年のマインドと云ふ雜誌へ掲載された。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ダーウキンより十年おくれて、獨逸のプライエルが『小供の精神』と云ふ書物を出版した。此のプライエルの書と、チーデマンの書とが、今、赤ん坊研究の二の古典であると云はれて居る。

其後色々な學者が出て赤ん坊を研究し、今では大體をお話すると。

生れた直ぐの赤ん坊には、觸覺即ち皮膚の感覺と、筋肉の伸びたり、緊張したりするより起る運動の感覺と、體中の機關が動くにつれて起る感覺即ち有機感覺と、及び味覺とが存する。

有機感覺はムード(氣分)で、ソレが精神狀態の始めである、赤ん坊は理由も何んにも分らぬが、ムードに觸ると泣き出す。

生れた直ぐの赤ん坊に、味を試驗すると、ソレソレの表情を現はす。例へば苦いものを舌の上に置くと苦い顏をし、砂糖を置くと甘い顏をし、又酸いものを置くと、酸ばい樣な表情をする。されば味覺は經驗を超越せるものであると、云へる。

最初には觸覺とか、味覺とかと云ふ樣な、生命を安全に保護する爲めに必要なものが存し、苦痛と危險を外へ示す爲めに必要な泣くと云ふ樣なことを知つて居る。笑ふことは泣くことに比すると、餘程、後から發達するのである。

視覺は生れて一週間以內に、明暗に感ずる樣になり、ソレから物を凝視する樣になり、追視する樣になり、最後には撰擇して一つのものを見る樣になる五十日以內にソウなる。

聽覺の發達は、視覺より遲く、嗅覺又更に遲く、學齡頃になつても、まだ嗅覺の不完全な小供が少くない。

と云ふ樣なことが、明白になつて來て居る。

母の子を愛するは、元より本能的ではあるが、母たる人々が、赤ん坊研究に關する學者の說を讀んで置いて、我が子を細かに研究すると大變に面白からうと思ふ。啻に面白いばかりでなく又有益であらうと思ふ。

一體日本の母親達は、赤ん坊を盲目的に取扱ひ、泣

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

きさへすれば、乳を飲ます、之れ日本人に胃腸病の多い所以だと云はれて居る。

此の盲目的と云ふことから、思ひ出すのは、先日三田谷ドクトルから訊いた話である。三田谷君の話に、此の戰爭の前に、英國在留獨逸人の教會で或日、獨逸の學者が演舌して、英國の小供は二にんの四は知られも、何故に二にんの四なるかは知らぬ、彼等はもの丶原理原則を調べようとはせぬ。又英國の小供に牛三匹と鷄五羽とで、幾つになると問へば、何心なく八つと答へるが、獨逸の小供ならばソウは答へぬ牛と鷄とは同じ種類のものでないと答へる云々と云つたとのことであるが、日本の小供は英國の小供よりもボンヤリして居る。

獨逸では、一本の林檎の木になつた林檎でも其家の主婦が、精密に其數を調べて、今年は幾個結實して、內幾個は蟲喰であつたと家族に話をし、記入もして置くと云ふが、日本では、今年は成りが惡かつたとか、善かつたとか、ボンヤリしたことを云ふ。信州の養蠶家なぞは、蠶に病氣がつくと、今年は運が惡いとか、ケチがついたとか云ふて、之れを運命にきして了ひ、進んで其の病氣のことを研究しようとさへしない。

維新以來、ヤヽ數を重ずるに至つたとは云ふもの丶長い間、數と云ふことを眼中に置かず偶々數を取扱ふことの好きな人が出ても、時々神社の繪馬堂に、今で云ふと幾何、其の解釋をした紀念に、其の事を書いた額を上げてあるのを見る樣に、遊び事に之を供して、之れを實用に供しなんだのであるから、容易なことで此の習慣はぬけない。

併し何時までもソウして居るワケに行かぬのは云ふまでもない。されば日本の婦人方も、近くは赤ん坊のことから研究し、研究の精神に富む樣修業すると共に數と云ふことを重んじ小供に數の觀念を深く入れて、此の日本國民性の一大弱點を柾正する樣に心掛けて欲しい。(談)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

人魚の夢

山田きよ

ゆふべの夢といふのはねえ。

はてしも無い海の眞中を、何の不安もなく私が歩いて居るのですよ。ゆつくりした大浪がつぎからつぎへと揺れて、それが重い強い力で私の肩の上を越してゆくのです。私はたつた一枚の羅ものに包まれて居るのですが、蒼々した水を透き通して見える姿はすつかり裸體なのです。束ねた髪が歩く度毎に少しづつ解けては、その先きが水に浸つて、海草のやうに私の肌にまつわるのです。

私は不思議な力で海の中を自由に歩くのが嬉しかつたのです。さうして自分と同じ形の人間がひとりも居ない事が愉快でした。

私は元氣になつて方々を見廻しました。

遙か遠くの方に小さな舟が一つ見えるのです。木の葉のやうに浮んで居るのが面白くなつて、私はその方へ行きました。それには悧巧さうな男がひとり乘つて居るのですよ。自分の船ばかりを眼も離さず見つめて、恁かして自分の力で動かさうと焦つて居るのですよ。けれど大きな浪に飜弄されて、いくら進む積りでも一つ處をぐる〳〵廻つて許り居るのです。

私はその男が眞劍になつて馬鹿な遊戲をして居るのがをかしくもあり、また舟に未練のあるのが氣の毒にもなりました。なぜあんなものに嚙り付いて居るのだらう、思ひ切つて命がけで海に飛び込んで了つたなら、私と同

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

じやうに歩く事も出來るだらうと思つて、そつと後からその男を海へ突き落してやらうと考へたのです。それが最も親切な方法で、その男に取つては一番の幸福であると考へたのです。さうしてもしか強ければ私のいゝ道づれになるし、もしか弱くつて私に縋るやうであつたらば、私の足許にふみつけて、ひと思ひに殺して了へばいゝ私はさう思つてにつこりしました。

ふと誰か吐息をしました。私は自分の後に人の居た事に氣附いた驚いて了つたのです。

「どなた後にいらしやるのは？」

それには答へないで、

「いたづらはお止めなさい」と言ふのです。

「どなたですか、お答へが無いと後を向きますよ」

私は一寸首を傾げてみせました。

「あなたの半分ですよ。後を見ると後悔する時が來ますから」

「ぢやあなたはあたしの半分ですね、まあ可愛いゝ人」

「みてはいけません」

「なせいけないの？あなたの聲は懐かし味があるやうだけれど、あなたの顔は冷たいに違ひない、いゝでしよう見ても」

「いけません」

「さう仰ると猶みたいのよ」

「いけません」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「厭なひとはゝゝ。誰がみるものですか、私だつて自分が振り向けば、あなたを見られる代りに自分も見られて了ふといふ事位知つて居ますわ。けれどそれをあきらかに見てはならぬと角立てゝ言はないで默つて居て下さいなねえ。柔らか味の無いひとね。振り向きたいと思ふのは自由でしよう、只振り向かずに居ればいゝのぢやありませんか」

「さうです」

「あなたは振り向かれる事を恐れていらつしやるのね。なぜあなたは大膽に振り向けと命令なさらない。あなたがさう仰れば、私はきつと弱くなつて了つて見ないでしように」

「つまらない遊びを止めて、默つてもつとお進みなさい」

「まあお聞きなさいよ、二人の眼が合ふときつと接吻するでしようねえ、その時はきつと立ち止つて了ふでしようね、さうして二人の大切な時が過ぎて行つて了つた事を直ぐに後悔するでしようね。」

「よく分つて居るぢやありませんか」

「分つて居ますとも、だけどよく分つた事をあなたの口から一度さう言はせて聞いてみたいのですよ。あら先刻の船はどうしたでしよう、それからあの男は？」

「もう私達はあすこを通り越して來たのですよ、しかし船に乗つて居る人間としてはあの男が一番えらかつたのでしたね。」

「私もさう思ふのよ、何だかあの男を見捨てゝ來たのが氣になつて堪りません。」

「過去を繰り返す間に時が經つてゆくぢやありませんか、およしなさい。」

「なぜあなたはさう冷たいのでしよう。私は此先きに誰も居ないと思ふと、何となく淋しいやうです。あの男を

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

一處に連れてくればよかつた――まあ限りない世界が何處まで續くのでしよう、さうして私達はいつまで歩くのでしよう。」

私の心に過去を懷かしむやうな弱さが浮んで來たと思ふと、私の體は海の上に横はつたのです。さうしていつか知らず泳ぎ始めたのです、妙だと思つて自分の姿をよく見ると、いつの間にか乳から下が美しい鱗できら〳〵と青く光つて居りました。

「人魚、人魚。」

私は驚いて身をおどらせました。私の聲は絹を裂くやうな悲調を帶びて、體は輕妙に浪の上を泳ぐのでした。さうして鱗の一枚づゝがみんな先刻見た船の男の顏になつて、何故か忿怒の眼を見開らいては私の體を引〆めるのです。私はそれをどうする事も出來なく成つて了ひました。

「あゝ」と私の半分だと名のる男が後でまた吐息しました、それが恰度夕暮の鐘のやうに、靜かに震えた響をながく引くやうに、私の胸に傳はらせたのでした。

私の頰に涙が流れました。その涙は夢から現につゞゐて、いつかほんとに泣いて居たのでした。

いやな夢ぢやありませんか、私はけふ一日いやな氣持がして居ます。――(大正四、二、十一)――

一週年紀念號について

來月で本誌創刊二週年になりますので、これまでに援助下された方々悉くに、成丈御執筆を願ひ、賑はしく編輯を致したいと思ひますから、長い短いにかゝはらず御骨折のものを、どうか皆様　御寄稿下さい。

愛讀者の方々には本誌より『何を學びしか』と云ふ感想を投稿して頂きたいと切に希望いたします。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

寄生蟲を思ふ

日向きむ

昨夜私は或會の席上からむづかしい公案を得て歸つた。

主婦の君一人の婦人客にいふ『△さんのお住居は眺望絶佳であなたのいはゆる星や菫は不斷に出さうな處です但し寄生蟲は棲息しませんとさ』婦人客微笑して默、△曰く『星や菫はわかつたやうですが寄生蟲とは何です？』婦人客昂然として曰く『あなたの樣な方の事です』それが私にはむづかしい公案であつた。

鋭敏なる主婦の君は、本則の提唱をしなければならない事を感じられたと見えて『それはねあなた○さんの常套語なんですよ一度夫を持つたものはみなその名稱を附せられなければならないといふのですそれで私もさう唱へられる譯なのです、しかしそれは無理ですねえ』と云はれた。

坐のしめつた時手のこんだピアノをひき、浮き過ぎた時薩摩琵琶や一弦琴を出すばかりでは至りつくされぬ主婦役の心遣ひも今更に思はれる、未亡人で英學者たる此君が甘んじてその名稱を自ら負へば其場は無事に濟むと云ふもの、香爐峰の雪　をい此きみは物かな清少納言も三舍を避ける主婦の君に私は讚辭を惜しまない。

つら〳〵寄生蟲の三字の意義をおもんみるにさてもむづかしき事哉！　本案提出の○さんといふ婦人客はそも何人？寄生蟲の中に覺めた蟲か、それならば禮拜して師事してもよいが……恐らくはさうであるまい、秋にあふみの蟲の歎きをしない可愛い蟲が筆の林の春風にうそぶいて思はず唄つた歌ではあるまいか、あなたの樣な方とは所信ある內容をさしたのか、一般外部

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

的に大別された雅號をさしたのか、雅號をさしたなら淺薄である、内容をさしたなら自らの雅號あるひは内容によつて自らを侮蔑したものともまた第一義的自覺をもつた者ともとれる、生にも死にも無にも有にも通ふ四門明けはなしのこの城内ではうつかりそこらの扉のかげにこびりついたもの丶不覺である、と思ふのがすでにどつちかに寄り過ぎたとそんじよそこらの和尚様がいはつしやるかも知れない、兎に角讀んで字の如き寄生蟲といふもの丶本來の面目をとらまへてじきじきに見なければなるまい、まづめに見える植物の枝や莖などに密生するものをはじめとして人間のかくれた胃の中腸の内に棲息するものに至るまで、遠い〳〵昔から微妙な生命が續いて來て、その因緣で生じたものに外ならない、有意識のもの無意識のもの個々別々のはたらきをしてゐるのをきのふの晩の客人は何と見られた事であらう、枝あるひは莖を持つた植物または腸胃の所有主の人間を本位として論ずれば『もと木枯らしてまたほかへ』の寄生物が不都合にちがひない、しかし蟲本位にも一寸なつて御らうじろ、その枝や莖あるひはその胃腸のなかに生れやうとして生れたのではなく知らぬうちに生れてゐた蟲は生れたからには生きよといふ本能のあと押しに押され〳〵て食べてゆく必死になつて生きてゆくといふ丈の事かも知れない、蚊といふ蟲がもし果して熱い夏の夜端近く物も着ないで寢る人々に寢冷えをさせぬやうつゝき起してあるく爲の使命を荷つてゐるのだとすれば否もつとさかのぼつてぼうふらの昔から惡水を溜るなと無聲で叫び、もしそれでも溜たなら中に生じたバチルスを食べて惡水を淸めてゆく重大な責任を負ふてゐるものとすればそのいふ處の寄生蟲發生に就いても何等かの責任が何處らかにありはしないか、食べるものと食べられるものと、何方が偉いかといふやうな事は私によくわからない、たゞぐる〳〵と廻つていつてお世話になつたりなられたりする世の中で要はどれ丈他に與へるかといふ問題だと思ふ、寄生蟲がどれ丈の自覺をしてゐるか私はそれも知つてゐない、けれど私が小さい時にこんな

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

事があつた、お手玉から出して蒔いておもちやのちようろで水をそゝいだあづきがやがて、ふたばの芽を出してひよろ〳〵とのびて來た時私は可愛い子のやうに思つて毎日〳〵庭の垣根のところまで幾度か見に行つただん〳〵大きくなつて來るのをよろこんでゐるうちに莖にべつたりあぶら蟲がついた、その莖を蟻があがつたり下りたりして途中で頭を一寸打つけ合うては行きちがひなどしてゐた、或時は褪紅色の小さいまるいからだに墨をはねかけたやうなほち〳〵のあるてんとう蟲がたかつてゐた事もあつた、それを蟻がみつけると必ず莖からつゝき落してしまふ、學校の先生からお話を聞けば、蟻はあのあぶら蟲から流れ出すある液汁を得るために毎日〳〵莖に通つてしまひにはあぶら蟲を穴の中までひいて來て牧場に養ひ、冬籠りの食料にその液汁を用ひる事が丁度人間の牛乳か山羊の乳を用ひるのと同し事である、そんな關係から蟻は常にあぶら蟲を護つて、てんとう蟲を追ひはらふのだといふ事である、ひかれていつたあぶら蟲は穴の牧場で何を常食としてゐるかしらないが、穴の外ではその寄生してゐる植物から營養分をとつてゐるに違ひない、私は私の生やしたあづきが大切ではあつたけれど、あのよく働く黒蟻にお乳を呑ませてやるあぶら蟲の働きにくらべてはあづきなんか枯れてもかまはないと思つた枯れるあづきが弱いのだと思つた、たりなければもつとあづきの芽を出さしてあぶら蟲にやらうと思つた、しかし昨夜の客人！私はあなたのいはゆる寄生蟲にはたらきがあるかないかこゝで論じやうと云ふのではない、あづきを枯さず、莖にたよらず、お乳ばかりどん〳〵出して蟻を養ふあぶら蟲があればそれはたしかに一番偉いまた何も役にたゝず、知らずに生れて憎まれてつひ毒殺の憂目にあつたり、熱湯の極刑を受けたりする蟲はいかにもふびんなものだと思ふ、たゞほつゝりと地べたにゐて自分の餌食を自分であさり一杯一杯に生きてゆく蟲ばかりが寄生蟲を侮るほど絶對の價値と權威を大自然から與へられた譯ではないといふ事がおぼろげに悟れたやうな氣がする丈である、自覺せよや寄生蟲！私の小さい友よ。

（大正四、一二）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

蓮の精

中尾清太郎

不忍池の傳説

或る夏の朝、ミノキチと云ふ若者が不忍池の蓮の花の咲くのを見ようと思つて、夜の明けきらぬ中に、早く家を出た。まだ道芝も露のひぬ時で、そこらあたりは、まるで夢の國のやうだつた。だんだん池の畔へ近づくと、肌ざわりのいい、涼しい風が、ひんやりと吹いて來て、池の蓮が、パツと微な音を立てて、咲いたかと思ふと、其の花の上に一人の少女が、宛も其花の香が人に成つたやうに、しづかに其處へあらはれた。ミノキチは少女の美しさに、うつとりとなつて、忽ち若い空想が全身の血を沸かすやうに覺えた。少女は頰笑んで、眞珠のやうな手を伸べて、ミノキチをさし招いた。ミノキチはずるずると引き寄せられて、餘儀ない力に誘はれるやうに、水の上をも渡つて行つた。霧は彼等二人を包んで、地上の者には見えなくしてしまつた。

しばらく經つと日が昇つて、霧がかき消された。其時ミノキチは辯天の御堂の後に取り殘されて、顏の色は蒼白く、眼は血走つて見えた。そして體が非常にだるんだやうで、足の力さへ身を支へるに苦しさうだつた。

その事があつてから、彼は病の床に就いた。けれども、どんな病ともわからなかつた。眼はつや氣を失つて、絶えず少女のことばかり思つてゐるやうだつた。

所が、或る夜、ミノキチは嬉しさうに見えた。それは、あの少女が彼の枕頭に立つて、再び美しい姿を見せたからであつた。そして少女は彼の手を引いて、隙

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

子も雨戸も、すうつと通り抜けて、家の外へ出て行つた。

しばらくすると、彼は歸つて來たが、それからと云ふもの、彼の病は日に增し、いよいよ惡くなつた。そしてとうとう返らぬ旅へと立つた。

ミノキチの親は、ただ一人の掌の中の珠をとられて泣きの涙で野邊のおくりを營んだ。其時不思議な事には、何處から來たとも知らぬ美しい可愛い少女が、葬列に加はつて、棺の側についてゐたのだ。其後、人の話では、不忍の池の蓮の花咲くあたりで、每度其の少女を見かけたとも云ふし、又夏の朝の霧が煙のやうに立ち迷うてゐる時、辨天の御堂の近くで、少女とミノキチとが一所にゐるのを見たとも云ふやうな噂がひろまつてゐた。

新眞婦人俳句

春角力打ち出して寒き灯哉　潤子
雲影の冬田離れず小半田　同
鴨鳴くや疎林影置く兒の淵　同
水仙の投げさしや床の二絃琴　くみ子
影引いて提灯寒し冬田道　同
法の燈の白々更けて寒の雨　同
野に疑れば柳に壷の月ありぬ　すみ子
朧夜や泣く兒な負うて花の土手　同

潮會々報

とみ子報

井戸端に魚割く人や淡雪す
得度する人美しう春寒し
ペリカンの口に消え込む粉雪哉
幕切れば冴え返るなり偉人像
酔さます茶寮の欄や春の雪
春の雪鴛鴦遊ぶ池に吸はれけり
春の雪汚れし犬の飛び歩く

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

蛙聲會の記

逵子誌

今迄叫びばかりを陰から聞てそゞろ共鳴を感じて居た蛙聲會が田端の日向さんのお宅で開かれるとの報に接して、七日の日曜日午後一時過ぎに馳せ參じましたところ、既に西川さん伊藤さんそれに御主人の日向さんは、火桶を圍んでお話しをしてお出になりました。

やがて樋口さんと新らしく御出席になつた錦織さんのお顔が見えました間もなく岩崎さんも御出になり、山田淸子さんと都合八人の會合でありました。

氣向上戸の陜辨度で氣まぐれ者の代表者を以て自任して居る私も、何だか今日は大變に氣持がよくつて、小田の蛙のその如くにかやかやとおしやべりをして歸りました。

今日の席上で異口同音に唱へられたのは、婦人の職業問題でありました不景氣の叫びが高くなり、生活難の波は用捨もなく足許を浸して來た今日、たゞ主人にばかり依賴して殆んど寄生虫の樣にして居る事は苦痛である、苦痛であるばかりでなくして決してかくある可きものでない、經濟の或意味に於ける獨立生活の保證、といつた樣に實生活に結び付て一日も忘る事の出來ぬ問題が期せずして話題に上つたのは誠に痛快な事でした。

女は消費者である露骨に云へば喰はして着せて倘日用の品を與へて飼つてある動物であるくせに、此頃の新しいとかいふ不屆千萬な女は眼を釣り上、黃色の聲を出して何をがやがやと騷ぎ立てゝるのだか、といつた樣な事を申された某々博士などが、今日の樣に眞率な婦人のけなげな處世上の自覺に訴へた此叫びを聞かれたなら赤面して今迄の廣言を詫びらるゝであらうと思はれました。

之と申て具體的にまとまつた計畫も會のものとしては熱議されませんでしたが、日向さんや西川さんはもはや御成算あるものゝ如く充分に確信をもつて或事を企圖されて居らるゝ樣な御話しでした。

船頭が多くして船が山に登つたり、所謂小田原評議で何等の得る處のない月並のものでなくして、如何に小さな試みであるにしろ眞面目に考へて、目的なり手段なり決して天地に恥ぢぬ事である以上は、決して引込思案に日を暮さないで、實行に現はしたいものであります、そして積極的に勇氣を以て進み龍頭蛇尾でなく、眞の實を結ばしむること又非常な努力が凡ての點に必要な事は申迄もない事であつて、公益的だとか或は月並の慈善を標榜して却つて世間の物笑ひの種子を蒔く樣な事はせぬ樣にしたいものだと皆申合つたのでした、私としては此次の會にも引續いて此問題に就て皆樣の御意見を伺ひ度いと思ひます。

閑談會

二月廿五日夜、本社にて開會、革新淘宮術の唱道者竹內師水先生に、一席の淘話をお願し先生の講演了りて後、來會者各自、感想を談つて、十時に散會しました。三月も同じく廿五H午後六時半より、

本郷駒込林町二〇六　新眞眞人社　で開會します。何人の御來會をも希望致します。三月もドナタ方御一人に、講演を御願する筈です。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

少年徳育上の參考

西川光次郎

世の父母なる人々は、何れも其の子の教育に對する自己の責任の重大なることを、感じて居る様ではあるが、實は感じて居ない人が多い。で私は父母の責任と云ふことを繰り返し叫ばざるを得ぬ。否私自身、自分の子供が大きくなつて來るにつれ、其の責任の重きこと、子女徳育の困難を感ずること、日に〳〵切なので、少年教育上の參考になることを研究し、之れから毎號其の一節を本誌に發表せんと思ひ立つに至つたのである。

(一) 父母の責任

生れながら犯罪の傾向あるものは、百人の中に一人しかないとは、學者の定説である。されば徳育其の宜しきを得ば、世に斯くも惡人や不正直者が、多くあるべき筈のものではないのである。

而して少年の徳育に就ては、學校の力も借り教會の力も借り、乃至は俱樂部の力も借らねばならぬのは無論であるが、何んと云つても家庭が元であつて、惡しき家庭の少年は、如何に學校や、教會や、俱樂部が骨を折つても救ひ様がない。

ソレで西洋の學者は、母たることのみならず、父たることも亦た、一つの職業であり、美術であり、科學であると云つて居る。

(二) 品性陶冶の材料

道徳を教へる丈けでは駄目である、教へると同時に开を實行するの方法を示し、實行を試みしめねば駄目である。人の品性は一月や二月や、又は一ケ年で造り

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

上げらるゝものではない。永い間、道德を實行せんと努力し、努力し、して居る間に、次第に造り上げらるるものである。

されば日常の些事、日々の出來事を、自分の試驗問題とし、品性陶冶の材料とすることなどは、極めて大切なことである。日々の出來事を問題とし、材料として、此の中より、忍耐を學び、同情を學び、謙遜を學び、人情の機微を學ぶことが出來る。小なりと雖も每日の出來事から、此等を學んで居れば、其の品性を陶冶することが出來るが、五年か十年、若しくば一生に一度しかないことでは、私共が道德の實行力を練習するの材料として、餘りに少な過ぎる。

(三) 子供を勇敢にする方法

大概な子供は、暗がりを恐れる者であるが、サウ云ふ子供は、父なり、母なりが、時々夜間散步につれて出て天を仰がせ、星を指示して、其の美しきを說き聞かせるがよい。さすれば子供はダン〳〵に暗がりを恐れなくなつて來る。雷鳴なぞも、恐れる子供が多いが父なり、母なりが、雷鳴のある度に、之れ寧ろ壯快でないかと說き聞かすがよい。さすれば小供はダン〳〵に雷鳴を恐怖しなくなつて來る。

蜘蛛の樣に、氣味惡い蟲でも、父なり、母なりが、蜘蛛の巣を見せて、ソレを面白く說明してやれば、小供は蜘蛛に對しても趣味を感じて來る、趣味を感じて來れば、徒らに恐れなくなる。

其他の事に對しても、父母の少しの注意で、小供が其者を恐れなくなる樣にすることが出來る。

(四) 酒の害を子供に說く事の必要

禁酒運動は、英米から起つたものであるが、今では歐洲全體が此の運動に熱狂するに至つて居る。斯く禁酒運動の盛大となるにつれ、禁酒運動と云ふことは、禁酒法案が議會を通過することを計ると云ふ樣なことばかりをするものでなく、學校で其の生徒に每週時を定めて酒の害を說かしむる樣なことにも、力を注ぐに

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

至つた。白耳義に於ては、毎週一時間半づつ、各學校で、生徒に酒の害を說き聞かせて居ると云ふことである。伊太利の政治家シグノア・フリエリイは『小供を氣狂病院へつれて行て、飲酒の結果發狂するに至つた人々の、狂的動作を見せしむると、百聞一見に如かずで、深く酒の害毒を恐れしむることが出來る』と言出し伊太利では、之れを實行して居るさうである。父母と學校の敎師とが共力して、小供の頭に酒の害毒と云ふことを、深く沁み込ませて置くことが何によりも大切である。（未完）

お里さんの死

但村はつ女

こよみの上ではちやうど今日が立春といふのに、昨夕からの寒さはまた格別で、山茶花の小枝に半おほはれた庭のつくばひには、もう久しく汲みほさぬ松の落葉をさながらちぢ込めた薄氷が、悲しげな灰色の雲をぼんやりうつしてゐる。

一しきり門で騷いでゐた子供の聲が止んで、ふと薄日のさしそめた朝の十時ころ、横町の方から尺八の好い音がきこえて來た。だん〳〵吹流しつゝ此方へ來てお向の鹿の子問屋の前でやつてゐるらしい。そつと炬燵から出た私は、編みさしのよだれ掛けを持つたまゝ格子の障子を少しあけて見ると、七つ下りのねずみ羽二重におもだかの五所紋、胸に明暗寺と書いた例の黒い袋を下げて、すらりとした腰には蒔繪の印籠。少し斜に此方を向ひて頻に音を入れてゐる。

炬燵に戻つてぢつと眼をつぶつてゐると、虛無僧は今「追わけ」を吹いてゐる。

あゝ、その「追わけ」！

しみ〴〵お里さんが思ひ出されて來る。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

忘れもしない去年の九月の或夜、私は湯上りの風を入れながら表二階の欄に寄つてゐると、黒つぽい絞浴衣に白博多の帯をしめたお里さんが、長いものを手にして、向ふの方から歩いて來ながら、ふと二階を見上げた。

ゆら〳〵した廂の前髪の下から、大い眼と、片ゑくぼが思ひ出すほど美しかつた。

やがて二階へ上つて來たお里さんは、もうちやんと袋から出した尺八を手にして、眼で笑ひながら吹き始めてゐる。

月があまりいゝので一室のうちにはわざと燈をさけてゐた。かるい風が折々二人の袂を吹いて、ほの暗い中に此人の好なライラックの香が漂ふ。

三つになる私の子供は、まあるい眼をみはり兩手の指を皆ひろげて感心してお里さんを見つめてゐる。

「追わけばつかりは、吹いても吹いても、私、あくことがないわ。」

云ひつゝ下に置いたお里さんは、つと私のそばへ寄つて來て、子供を引とり、其肩に手をおきながら、顔をのぞくようにして、

「和歌ちやんのお父さんお留主？　おうち？　あのなあ、姉ちやんとこのおみつちやんのお父さんはなあもうぢつき戦爭に行かんならんの。戦爭から歸らはるとき何のお土産もらひまほ？　ラッパどすか？　鐵砲？　何がよろし？　あんた。」

「大きな〳〵お手まりと、桃太郎の御本と、それから……」

戦爭と云ふことのよく解らない子供は、そんなことをいつてお里さんに甘えた。

お里さんの眼には露があふれんとしてゐる。

それは青島開戦もつい目前に迫てゐる頃であつた。

此夜お里さんは其義兄の光二さんが明日が日にも由良の砲臺へ馳けつけなければならないことや、光二さんの六人の子供のことや、繊弱な美しい、姉さんのこと、さては光二さんのうちのお商賣が女手では困難な事など話して、何日になく打ちしめつて見えた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

無事平穏萬事舊習を守る京の中でも特に中京のまん中の此所らあたりで女の二十七迄も獨身でゐることは世間の口も氣の毒だと人事を頭痛にやむ隣の伯母さんも世に、人一倍豁達な氣性のお里さんは、なまぢつかヲールドミスなどとかげ口を、氣にしてゐるとように人の思はくも耻い位な氣で、いつも私などが新しいお友だちを紹介するとき、自分からつと進んで出る位にして、

「私は泉さとと申まして二十一年三月生れ、それで御らんの通りヲールドミス、どうぞ隨分御心安うに…………」

などと太つぴらに磊落に出て、びつくらさせられるのが例であつた。斯した此人の態度を見る時、私は一種名狀しがたい淋しいような誇らしいような感に打たれがちなのである。

十九の年とかに光二さんの戀女房となつて、今年三十になる迄後から々々と六人のお母さんになつたお里さんの姉さんは、遊藝とお針との稽古に餘念なき町娘の、もとより華やかにお人形みたいな處女時代もあわたゞしく過ぎて、人妻として子に追はれ、此年頃人世の意義がどうの、結婚の問題が斯うの、女の貞操だの何のとそんな事をゆる／＼研究してるひまを持たない人である、それに反してお里さんは、處女時代もただ過ぎゆく淋しさは、無邪氣で磊落な性をさへ、とにかく考へがちになるべく餘儀なくさせられて、男のような氣質、竹をわつたような、人に思はれる胸の底に、そよとの風にも波たちさうな弱さやさしさの限を漂へて、年に月に涙もろく、情ふかく、そして何處までも明快なさつぱりもので、誰かの評に、「お里さんと云ふ人は一寸素人のようでない。とりなりなら、氣風なら、まるで物馴れた苦勞人のような」とあるのも、なにもあばずれだとか、蓮葉なとか云ふ意味でなく物に呑込がよくらちの早い、そして同情深い點が或種の苦勞人を髣髴させたからである。

さうした姉妹の仲はお互に理解が充分ではなかつたお里さんの氣性では、よくつけ／＼と姉さんと云ひご

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

とをしたりすることがあつても、もの丶二時間もたつとけろりと忘れたように高笑ひをしたりして無邪氣に無邪氣過ぎてしまつた、感覺の大まかな姉さんはよくお里さんをそばにおきながら私などに向つて、

「年の更た娘をかゝへてお父さんも中々心配どすえ。どうぞなあ早う此人が定らんと私かて近所の手前面目ないやおまへんか。」

などと並べられると、私も挨拶に困つてそれとなく姉さんのとらはれ過ぎた感じを外らすように爲向けてゐるといつた場合、

「しようもない。だまつといやすいな姉さん、まだ〱生ひさきが永いえ。」

なんて洒落に云つてのけたりしても、後で私一人になつたとき、面を伏せながら、

「人の親になんてなるもんやない。いつ迄でも心配してくれはる、親の老と云事ほど身にしみ〱淋しいことはあらしまへんなあ。」

暗然とわきを向いて、さつきとは別人のように見えた、三日にあげず訪ひもし訪はれしも、無口な私を笑はせ、しやべらせ、いつも〱活氣にみちたが里さんも光二さんの出征中はつい足がたえがちになつた。

十月の、夷講もすんで時雨がちな日がつゞく人なつかしい初冬の或夜、二階の四疊半で、お里さんと火鉢をかこんだ私は、ちようどS先生からそつと私に御話のあつたお里さんの縁談の事をもち出した。それは先方から大變望んでの話なので要はお里さんの一諾にあるのであつた。大方の事は赤裸々に打あけ合つた私と此人との仲で、どうやら他に何の故障もないらしいが其處は好き不好き以外に何か本人の考へがないとも限らぬと云ふ事から、姉さんが特に私に此人の本心をきかせようと云ふのである。隨分古い話のお里さんの初戀人？否寧幼なじみに過ぎぬ人の噂や何かゞ大分出た此度の話になつた時、

「とにかく其人は私も一寸よそながら知つてまつせ。けどなあ、ほんと斯う云ふと又例のえり好みみたいなけど虫が好きまへんわ、私も別にどうの斯うのと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

六かしい注文はないのどすけどなあ、御存じの通、唯何所かから私の頭の上らぬところがある人やないとなあ、つまり心服するとでも云ふのどすやろう。そうした人でないといやどす。それは一目見て一言二言話したら大抵解ります、職業なんて何でも宜しいの、唯此人ならと胸にをさまる人……まあ何かしてそうした暗示をえた人ならと思ふのどす。果してそんな人に何日廻り合すやらわかりまへん。よつぽど呑氣どすやろ。ほゝゝ。」

此話はそれきりで、お里さんは氣を代へるように、三味線を取あげて「弓はり月」を唄ひ出した。灯の影に少し横顔のやつれが見えてうすい白粉のいつになく手際のよくないのも此頃いそがしいせいかと私は悲しくなつた。短い「弓はり月」を彈き了つたお里さんは、火鉢の上にもみ手をしながら。

「一寸お見やす。此頃兄さんの留主に私が庭へ下りて代物を扱ふのでこんな結構な手になりましたえ。それ、ばり〳〵云ひやすやろう? これも御奉公の一部分やほゝ。」

云ひながら色繻子の帯に手の平を觸つて見い見いしてにつとほゝゑみながら、光二さんの店の用で、人手のない時建仁寺垣の寸法を或大きな縮緬問屋の奥庭迄あたりに行つた話や(光二さんのうちは竹問屋である)茸山行きの連中の注文で澤山酒筒をたのまれた時小者相手に刀を持つて見事作り上げた時、注文主が見えて。

「ひやあ!!お姉さん御自身のお作とは恐れ入升なあ。どれ〳〵、其酒筒は是非私のときめときます。然し何どすな、兄さんお留主でお大抵やおへんなあ。」

と感心させたこと。此頃の時雨に、軒に立てかけた竹をぬらしてはと、入れようにも、折柄若い者は留主なり他に男手はなし、ものは試し、一つやつて見ようと二間半も長さのある丸竹の、四五本づつ束になつたのを、お里さんがかついで三束ばかり入れた時の肩の痛かつたこと、その又村時雨のぢつき晴れ上つてしやくに觸つたことなど一しきり語りつゞけたお里さんの眼

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

▶心靈的の十八名著◀

十二版

農學博士 法學博士 新渡戸稲造著
櫻井鷗村和譯

邦文 武士道

菊判上製美本全一冊
定價壹圓 送料八錢

●櫻井大尉著 **雑嚢** ▲四六判總洋布製 定價七拾五錢 送料八錢

●農法學博士 新渡戸稲造著 **英文武士道** ▲仝前 定價壹圓 送料八錢

●櫻井大尉著 **英文肉彈** ▲仝前 定價壹圓 送料八錢

●櫻井鷗村編 **英詩評釋** ▲仝前 定價壹圓廿錢 送料八錢

●農法學博士 新渡戸稲造著 **折にふれ** ▲仝前 定價壹圓廿錢 送料八錢

●蕉雨樓主人編 **西洋一話一言** ▲仝前 定價七拾五錢 送料八錢

●文學博士 南條文雄著 **道の話** ▲仝前 定價九拾錢 送料八錢

●盲天外 森恒太郎著 **農業道德** ▲仝前 定價八拾錢 送料八錢

●櫻井鷗村著 **リンコーン物語** ▲菊判總洋布製 定價壹圓廿錢 送料八錢

●櫻井大尉著 **銃後** ▲仝前 定價二圓五拾錢 送料八錢

●櫻井鷗村著 **歐洲見物** ▲仝前 定價二圓七拾錢 送料十二錢

●日下部重太郎著 **國文朗讀法** ▲仝前 定價八拾錢 送料八錢

●櫻井大尉著 **肉彈** ▲仝前 定價七拾錢 送料八錢

●文學士 荒木良造著 **貯金談** ▲四六判洋装 定價參拾五錢 送料六錢

●雪堂 本多精一著 **新日本の財政經濟** △菊判總洋布製 定價一圓五拾錢 送料八錢

●小倉清三郎譯 エリス博士原著 **男女性的特徴** 定價一圓五拾錢 送料八錢

新刊

櫻井鷗村著 ナポレオン物語

菊判上製美本全一冊
定價壹圓七拾錢 送料八錢

發行所 東京麹町二丁目 丁未(ていび)出版社 振替東京七八四七

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

創立　明治二十一年三月　諸積立金　壹千五百拾四萬九千餘圓

資本金　壹百萬圓　契約金高　壹億七百拾八萬貳千餘圓

（大正三年四月末調）

帝國生命保險株式會社

東京市日本橋區吳服町十六番地

電話（本局）九五、三三八、一六五七

振替貯金口座東京九一二九

社長　福原有信

常務取締役　北里裟袈男

（支店）　京城　大阪　仙臺

（出張所）　京都、廣島、名古屋、金澤、九州、臺灣

東洋生命保險株式會社

東京市日本橋區一丁目十一番地

電話本局（四五一〇番　四五一一番

（四五一二番　四五一三番

振替貯金口座東京一七九一番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

新しき家庭には常に新鮮なる食物を要す風味會は斬新なる方法を以て常に新しき食物を御家庭に供給致候

顧問 松原新之助君　三宅秀君

風味會

麻布區材木町七番地
電話芝三一四九番

委細御電話又ははがきにて御問合を乞ふ

月やく止り

御困りの御方や不順の方などは三錢切手封入御手紙下さい身體に害なく下りる良藥を速に御知らせ致します

東京市本郷千駄木町　鈴木やゑ子

戸板裁縫學校

▲校長 戸板せき子

▲沿革 本校は明治三十五年二月の創立にして、爾來十有四年、其間卒業生を出すこと實に二千四百有餘人なり……明治四十五年三月規則を改正し、大正二年二月更らに學級を増設して夜學を開始し、更らに規模を擴張して教員養成所を設く、而して同年五月二十六日文部大臣の認定を受くるに至れり、其年八月二日組織を改めて財團法人とす

▲修業年限其他 豫科修業期限は三ヶ月以上一ヶ年以下とし其力に應じて之を定む本科修業期限は七ヶ月とし之れを前期三ヶ月後期四ヶ月とし、學期は毎年一月に始め七月に終り四月に始め十月に終り七月に始め一月に終り、十月に始め四月に終る
高等科修業學期限は本科と同じ
中等教員養成科は修業年期を二ヶ年とし入學期日を毎年四月十月の二期とす（高等女學校五ヶ年の課程を二年に短縮したるものにて卒業の後は中等教員檢定試驗を受くるの特權を有す）外に尚ほ研究科あり

東京市芝區三田四國町二の十六號

文部大臣認定
財團法人
私立 **戸板裁縫學校**
電話芝四四八九番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

輸出入各種最新式

萬年筆 卸小賣業

○陶玉萬年筆各種
○人造水晶筆各種
○ラセン筆各種
其他

東京市淺草區駒形町
電車停留場
合資會社 共盛社營業部
電話下谷 六〇一九
振替口座 七二四三

猿馬印

手足のかゆみいたみがよくなをる

しもやけ根切薬

各薬店に取次あり

本舗 東京日本橋上槇町 安川晃榮堂

定價 五錢 十錢 廿錢

打身
りようまちす
諸關節の痛
神經痛、膏の凝
其他疼痛一切の妙膏

ブランドレス膏

なくなはれば スグ治ろ

定價十錢・卅錢・五十錢

東京本郷區弓町二ノ三 桃春堂
振替東京二九六九〇番

産科婦人科小兒科

女醫 鷲山改め 吉岡彌生

院長診察 宅診午前 往診午後

醫員診察 午後

産室及病室の設けあり随時入院の需めに應ず

東京麹町區飯田町四丁目卅一番地

東京至誠病院

(電話番町二二五七番)

見本進呈

佛教講義録

僅に一ヶ年で佛教の大系が學び得られる

學界空前の佛教講義録

佛教がわからなくては日本の歴史の解釋が出來ない日本の文學も味ふことが出來ない日本文明の由來するところも知ることが出來ない從つて佛教を知りたいといふ人は多いが唯識三年倶舍八年ては手もつけられないそこで誰にでも手つ取り易く佛教の大系が飲み込めるやうにといふので現代有數の學者に請うてその專門とするところの學科の講義をして貰ふことにしたのである世の徒に大家の名を列して杜撰な代作講義を掲載するが如きものと同一視することなかれ

- 佛教研究法　東洋大學教授 曹洞大學教授　島地大等
- 佛教概論　加藤咄堂
- 印度の佛教　帝國大學講師 ドクトル　荻原雲來
- 支那の佛教　東洋大學教授　境野黄洋
- 日本の佛教　豐山大學教授　境野黄洋
- 佛典の解説　帝國大學講師 文學士　常盤大定
- 法華經義釋　天台大學教授 日蓮大學教授　島地大等
- 禪學要義　加藤咄堂
- 歐米の佛教　宗教大學教授 帝國大學講師 ドクトル　渡邊海旭
- 佛教美術談　文學士　中川忠順
- 宗教學綱要　眞言大學教授 文學士　融道玄
- 基督教綱要　慶應大學教授　廣井辰太郎
- 神道綱要　東洋大學教授　足立栗園
- 其他臨時講義を増加すべし

毎月一回十五日發行、一冊菊判二百頁、滿一ヶ年(十二冊)完結

	一ヶ月分	三ヶ月分	半年分	一年分
購讀料	六十錢	一圓五十錢	三圓	五圓五十錢
束修	五十錢	五十錢	五十錢	五十錢
合計	一圓十錢	二圓	三圓五十錢	六圓

發行所　東京小石川區原町六　振東京一五六八六　電話番町二六〇八　丙午出版社

三月十五日第一號發行(當日までの申込者は束脩不要)

産科
婦人科
篠田病院
本郷區丸山新町
女醫 **篠田せい子**
電話下谷四〇六八

家傳靈藥
ぢの藥
自宅ニテ安全ニ治ル

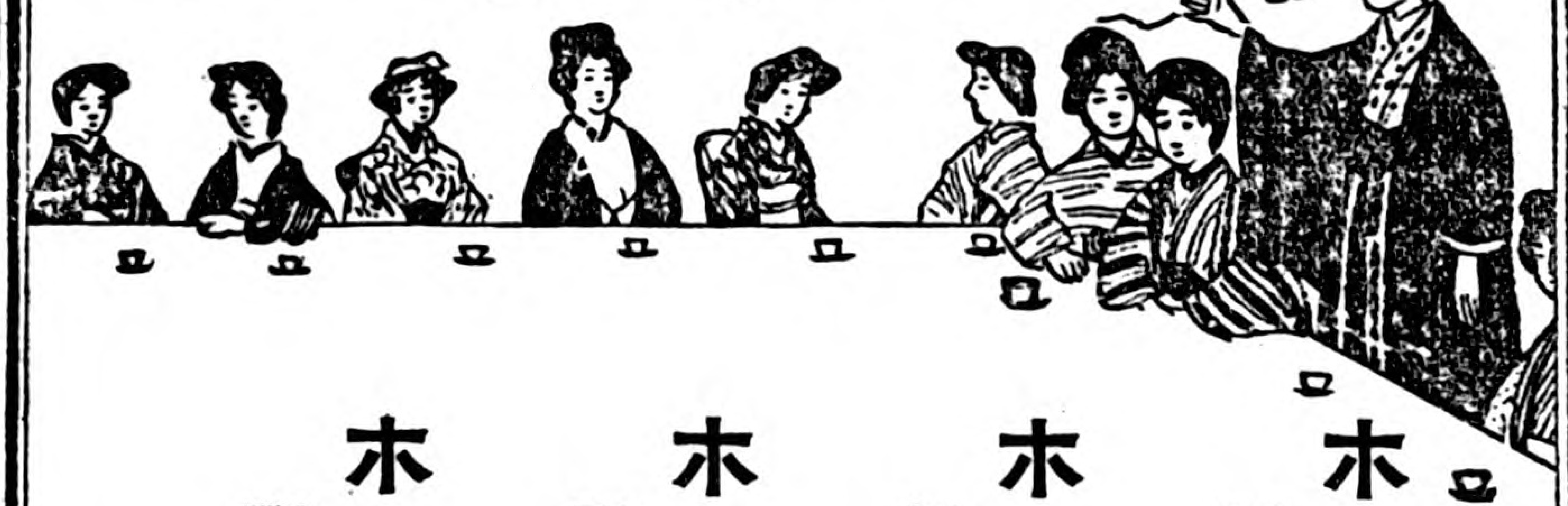
●イボ痔●痔痒●裂痔●痔出血●脱肛痔●痔瘻●不灼不切現狀の儘で治療奏効頗る顯著の
家傳靈妙藥あり「ハガキ」にて申込有ば病原理由自宅自療法の説明書呈す
●東京市京橋際疊町壹番地
製藥本舗 **小松盛林堂**

産婆看護婦派出
生徒養成
東京市芝區三田四國町二番地五號
東京衛生團 産婆看護婦**部**
電話芝八百六十四番
部長 産婆看護婦 山下まつ子
府下荏原郡大崎町大字桐ヶ谷三百五十九番地
産婆部 大崎支局

東京市京橋區南鍋町壹丁目四番地
ラヂウム專門療院
電話新參〇壹六番
院長 ドクトル從五位 渡邊鼎

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

皆様薬はホシに限ります



ホシ風薬

四季引風▲頭痛▲發熱▲流行感冒▲痰咳等凡て熱性

三包五錢　七包十錢　十五包二十錢

ホシ痔劑

痔疾一切▲脱肛▲出血を止む

二個入十錢　五個入二十錢　十個入三十五錢

ホシコロダイン

胃病▲腹痛▲中暑▲食傷▲吐瀉▲溜飲▲眩暈

小瓶十錢　大瓶二十錢

ホシビーナス

腦病▲神經衰弱▲耳鳴▲ヒステリー▲鼻茸▲不妊症

小瓶二十錢　五十錢　大瓶一圓

資本金百萬圓

星製薬株式會社

東京市京橋區南傳馬町三丁目

電話京橋（特）一七八五番三〇二〇番三二一三番（振替東京二〇五二二番）

には涙をまぎらすほゝゑみがあつたので、私は胸さきに鉛を呑んだような感を抱きつゝ、やつぱり勢よく相手になつてゐた。五尺一寸五分もある私より、まだ少し脊のある、そして處女の頃から力では同じクラスで人に負けた事のない、其上物にかゝはらぬお里さんなればこそ男のような御手傳も出來ると云ふもの、私は頼もしさと哀さを半分づつ味はされた。

其夜更けて風寒く、裏の方の雨戸など心細く鳴り騷いで、ぢつと火鉢による身もお互に顔見合せて、近く々々よりそひ度いたよりなさなつかしさが二人の身をおそつた。十二時がなつて、街上の靜けさに心づいた二人は心を殘し々々玄關で別れる時、

「お正月には兄さんも大かた凱旋しますやろうと思ひますさかい、お孫さんつれてお遊びにお越やす。何時も遲う迄おやかましい申まして、大きにお邪魔致しました。」

母へ笑顔でいひながら女中と歸つて行くお里さんの後姿が、思へば見納めとなつた。

つい一周間程の病氣が終となつて、いゝはての二十日のあわたゞしい浮世を未來永劫後に殘して　さしも五つの年はしかに掛つて此方、お醫者に手をとらせたことのないと云ふ人が、命ならいたしかたもないわけである。

容姿、健康、才藝、みんな美しい花と匂ひながら、ついに實を結ぶ時なくて過ぎた。

あの歌澤の「弓はり月」冴えた音々が悲しい。

それよりも、兄さん思ひのお里さんの死期にも逢へなくした青島の戰爭が恨めしい。

光二さんの大阪上陸はお里さんの死となつた一日の違ひであつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

樋口博士夫人の死に就て

流蘇女

高木兼寛男の長女で、博士喜寛氏、博士兼二氏の同胞に當るドクトル樋口繁次氏の夫人寛子が一月三十日、近所へ聞えるやうな、けたたましい叫び聲を揚げて、自殺したと云ふ噂が立つた。直ぐに警察からは檢視の役人が來て、醫者も兇器で自殺した者に對する急場の手當をしたと云ふ。又一説では、夫人は首を縊つて死んだのだとも云ふ。とにかく、世間の噂は自殺と云ふことに衆口一致してゐる。それならば夫人の身内側では、「決して自殺ではない。寛子は久しい間ヒステリイに惱んでゐて、時時氣狂ひじみた行ひもあつた位で、此日急に心臟痲痺が起つて死んだのだ」(繁次氏談)と、強ひて「自殺」と云ふことを取り消さうとしてゐる。これが私にはとんと合點往かない。自殺だつて、心臟痲痺だつて、死んだのに變りはない。また自殺したつて、さう惡い事とは思へない。まして醫者の眼から見たら、自殺も病死も、そんなに昂奮して取り扱ふ程のものでもあるまい。殊に況んやヒステリイの女が――時時氣狂ひじみた行ひさへあつたと云ふ――が自殺したつて、病理上ちつとも不思議はない筈である。しかのみならず内内私が醫者仲間から聞いた所では、樋口君は隨分遊んだ人だとも云ふ。で夫人のヒステリイもそれが原因に成つたのだと説明して呉れた。さうすりや、一層事は明瞭になる。何も自殺した者を心臟痲痺だなどとごまかす必要はない。そんなごまかしを言ふなら、自殺だつても死ぬる間際は心臟痲痺であらうと皮肉りたくなる。私は夫人の身内側が、あれほどの學者揃ひでありながら、なぜにもつと落ち着いた態度で、彼女の病歴なり、病牀日誌なり、又は警察の檢案書なりを公に示して、世間の疑を霽らされないのかそれを怪しみもし、惜しみもする。さう云ふ公明な手續も取らずに、唯「自殺」でない事丈を打ち消さうとするのでは、平生學問や眞理の爲めに盡くしてゐる學者にも不似合のことであると言はれよう。そんなことでは、無學の俗人とちつとも變りはない。

しかも高木兼寛男と云ふは、非常に子供自慢で、「わしの子供達はみんな理想的に育て上げられてゐる」と、毎度公會の席や何かで、隨分高調子に吹聽されたものである。「博士」の息を持たれたのも、遊び好きの聟を持たれたのも、ヒステリイの娘を持たれたのも、みんな隱すことの妥らない打明け話であつていいではあるまいか。それでこそ、學問眞理に仕へる學者で、尊敬も拂へるではないか。

私は故二葉亭主人の息が、父からの或る天才と、肺病の遺傳とを持ちながら、始終彼の父を呪つてゐると云ふ話を、非常に深い興味ある事に聞いた。樋口夫人の身内は、多くの學者揃ひでありながら、なぜ世間を偽り、學問眞理を敝ふとするのであるか。

それとも、爵位や家柄と云ふものを、學問や眞理より貴いものとして、お家大事と云ふ譯かそれなら、もうお話にならない。その代り、高木男などが、今日までに利口ぶつて言つた事や又これから後も言ふであらう事は、三文の値打もなくなるのである。

あとを掃除して置いて下さい

高村光太郎氏を訪問した所、玄關に「コヽで遊でもよろしいが、あとを掃除して置いて下さい」と紙に書いて、傍に帚までそへてあつた。此の張出に就き、小供の批評を陰で聞いて居ると、まだ學校へ行かぬ小供は「コヽで遊でもよいが、あとを掃除せねばならぬのね」と云ひ學

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

校へ行く小供は「コウ書いてあるが、實は遊んで貰ひたくないのである」と、曲つて解釋するのが常である、どうも學校が小供を小さくする樣であると、主人の高村氏は物語つた。

戰亂裡の獨逸婦人

獨逸の皇后陛下は、兵士送迎の爲め停車場へ或は傷病兵御見舞の爲め病院への御巡幸に御多忙を極められてゐるとのことであるが、伯林の電車の運轉手、車掌などの夫人達は、出征の際、ぬぎ捨て置きたる夫の帽をかぶり、服をつけて車掌、運轉手の役を務めて居るとのことである又農民の妻等は、夫の出征後、女の手ばかりにて田畑を耕して居るとのことである。其他、今まで家庭の事にのみ囚はれて居た婦人が、或は進んで看護婦を志願し、或は出て失業者の爲に盡し又或は保安の任に當るなぞ、今や獨逸の婦人は上は皇后陛下より、下は裏長屋のお神さん、小作人の山の神に至るまで、悉く前代未聞の活動をして居るとのことである。

戰爭が計らずも、獨逸婦人を新しき活動の舞臺へ引き出した。戰後此等の婦人を、悉く戰前の位地へ歸すと云ふことは、不可能であらう。戰爭で死んだ男子の社會的地位を充たすと云ふこと丈けでは尚ほ足らぬことであらう。果して然かりとせば、此の大亂後の獨逸には、戰前に是を見ざりし、社會的現象が幾多も起ることであらう。

世界一の電話國

加奈太、中央亞米利加、南亞米利加、英國、歐羅巴、亞細亞、亞弗利加の電話を總計しても四百萬箇に過ぎないと云ふに、北米合衆國には一千萬箇の電話があるとのことだ。紐育市丈けでも、歐洲の六ヶ國即ち墺匈國、白耳義、北威丁抹、伊太利、及びネザランドの有する電話の總數よりも、より多くの電話があるとのことだ紐育には一つのホテルで、希臘、或はブルガリヤ國よりも、多くの電話を有して居るものがあるとのことだ。人口二百萬のシカゴ市は佛國全體よりも多く電話を有して居るとのことだ。人口百五十萬のヒラデルヒヤは露國よりも多く電話を有して居るとのことだ。

斯く北米合衆國には電話が發達して來たので彼の大陸全體、ドンナ田舍の農夫の妻も、都會の住民に近き便利を得ることとなり、大陸全體都市の一部であるが如き、感じがする樣になつて來たとのことである。

北米合衆國では、電話は申込むと、二三日の中に架設され、使用料の外、何にも入らぬとのことだ。

冬ごもり（二）

北海道　吉川たみ子

元旦、初日麗らかにさし出づ

いやが上にも降り重り〱たる雪に、滿天滿地白皚々、草も樹も時ならぬ花の滿開、藁屋、板戶も金殿玉樓に、變かはり松の色も一しほ榮えて緑增したる枝に名は知らねど美しき小鳥の嬉々と飛び交ふ風情など言ひがたき自然の美景、この大景に包まれて新年をむかふ。限りなき恩寵を感謝すると共にまた大なる責務を感ずる。與へられたる新らしき地と新らしき境遇は、我等に新らしき使命を語る、各歲、各期、各時はそれ〲特殊の要求を有す、われらは過去永年にくりかへし〱たる愚劣の生涯より醒め新に生れて向上發展意義ある生涯に入らねばならぬ奮勵努力大に進まねばならぬ、

元朝の美觀に打たれて、コンな感想に耽つて居つた間に一同は衣服更めて座を列れた、先、神を禮拜し限りなき恩寵を謝し將來の加護を祈り次におめでたう〱の挨拶を交換した。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

福茶を飲み雑煮の膳に向ふ雑煮も土地により家風によりいろ〳〵相異もあるが京阪地方の例をとつて正式の味噌雑煮とした。

屈強の男兒學生の多數が揃つて箸を運ぶので給仕の忙しさ一通りでない。

　食ひざかり雑煮の餅が間に合はず

と思はずふき出して笑つた、これも目出度き例の一つである、あゝ屈強の男兒よ、この北海の嚴寒と峻酷なる修練とに鍛へ上げられて偉大なる人格と强健なる身體とを大成し國家有用の材となり大に爲す所あれかし、と前途の祝福を祈つた。

十一時よりクリスマス祭を行ふ。

元旦のクリスマス世間に少い例だけれど色々の方面から考へて最好いと思ふ、申までもなくクリスマスはキリストの降誕が吾々人類に與へたる靈性的の賜ものを喜び祝するので、日、其ものには何の價値もないのである十二月廿五日は何でもない況んや確實なる誕生日は不明である然るに正月を前にひかへた歳暮の最忙しき日のあたりに匆惶お役目的に祝ふより年改まりて身も暇閑になり氣分も新らしくなりてから心靜かにお祝ひする方がずつと神の御心にもかなふ事であらうと思ひ、毎年正月の元日か二日に行ふことに極めた、又其祝ひ方につきても諸方の敎會などで行はるゝやうに幼き子どもにいろ〳〵の藝をさせたりお話暗誦などを述べさせるのは大人の慰みにはなつても小さ子どもには非常な重荷であつて子どもを喜ばせるより、むしろ苦しませる方が多くてお祝の實にはならぬからそんな事もせずにクリスマスツリーにお菓子や玩具やみかんの類を澤山につるしては子どもの喜ぶ品を包んで贈り物として簡單な式をして後は面白く自由に遊ばせ贈り物を與へてよろこばせた。

夜は歌かるたトランプなどの遊戯でなか〳〵の賑はしさであつた。

二日

朝例の通り雑煮を祝ひて午前中は子供に讀み初め書き初め仕事初めなどさせて午後から私は諸方への年賀狀を認めた、夜おそくまでかゝつて、はがき五十六枚と手紙三通を認めた、年賀狀につきても只形式一ぺんに恭賀新年、謹賀新春とのみ書いたのを早くもらふよりどの位遲くともたとへ二月三月に延びても土地の情況一家の消息を詳しく認めたのをもらふ方がずつとうれしいものである、よつて一枚のはがきでも餘白を殘さずしかも御無沙汰とか相變らずとかいふ餘計な文句を省きて土地の狀況珍らしき出來事家庭の消息などを詳細に認めたからなか〳〵骨が折れた。

三日

今日は町の商店の初賣り出しで見物に出かける綿あつき綿入を幾枚も重ねマント頭巾に包まれ足は毛布まき立てツマゴを履きて防寒の用意充分にし馬橇にのつて、內地ではかつて見た事もない異樣の扮裝である、馬は積雪を蹴立てて一走り曳かれて滑る橇のはやさは目のまはるほどなり。

沖をはるかに見渡せば眞白の氷山雲の如く押寄せて岸邊近くに進んで來る、海水ために窄められ激して其響き雷の如し、この流氷岸に密接すると同時に波動かず海水氷結して船の航行止まり漁船も陸へ方附けられて春陽氷の解くる迄海は靜けき休養に入る。

町に着けば各商店球燈をつるし旗など樹てゝ福引の景氣をつけて居る、一等米一俵、二等醬油一樽など土地に相應な景物の廣告を張り出してある、あまりの嚴寒に福引どころでなく二三の買物だけして急ぎ歸途に着いた。

家路をいそぐ馬の足疾風の如く馳せて丘と言はず谷と言はず橇を引き廻すものだから片側高き處へ上つたと思ふまに橇は傾斜して私は一間計も雪中へ抛り出された。馬は勢に乘じ一散に三四丁先きへ飛んで往つてしまつた、いやがう

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

へに着重れたる上をマント頭巾に包まれた身體を雪中に轉がされてまるで雪だるまの如くやうやう起き上つて足袋はだしのまゝ馬を追ひ驅けた冷たさ、荷橇に乘るとコンナ危險は屢々あると笑はれた。

　かくて正月三ヶ日を全く我ものとして愉快に送つた、人繁き場所に住めば餘計な心遣ひや無意味な形式に忙殺されてゐたらお正月を他人のために費してしまふのに、これも新開地生活の賜である。

四日

今日より仕事を始む

　吹き來る風が降りしきる雪を繚亂して落花と散り飛玉と舞ふ。

　この寒氣この吹雪と闘つて斧を打振ふて居る男兒等の勇ましさ都會柔弱の坊ちやん方に見せて上げたい、此地へ來る時親戚知己の人々から子供の教育につき尠からぬ注意を受けた、しかし私等は學校々々と通り一遍の教育を受けて卒業するや否や餓狼の餌をあさるが如く眼をいからし牙をむきだして就職口と俸給とを追ひまはすの外餘裕なき當世風潮の渦中に愛子を投ずるに忍びない、額に汗して眞面目に働く人には生活難もある筈なく、失意、不遇、罪兇の狼狽などもなきは當然の事、健康と自由と愉快と安眠はこれらの人々に與へらるゝ天與の賜である、朝夕二時間づゝの學科の修業と日中五時間の勞働は彼等の精神を練り身體を鍛へ如何なる世路の困難も打勝て進む健兒を養成するに足る。勞働によりて生活し學問教育によりて人格をつくり品性を磨き天地の眞理を發見し人世眞の幸福を得させたいとは私等が子に對しての理想である。

新興婦人短歌

芹匂ふ畔みち行けば己が家の裏に桃笑ひつゝあり
飼猫の老いて見にくゝなりにけり毛なみの汚れ眼のうろみ
二度三度君が玉章繰りかへし見てあれば窓に煙る春雨
睦じく鴛鴦の遊べる心字池消え込む雪をあかず見らする
捨てられし大根も甘き土の香に莖たちにけり塵塚の傍
湯屋を出て夢二の畫にも似し君の足駄にかろく淡雪をふむ

片桐くみ子

五年を音なき人に五とせを文してなほも飽かずおもへる
ともすれば日毎文かきともすれば三年音なしわが思ふ人
年を經し人と思はず十六の御姿こそ夢にも通へ
天人の袖をこぼるゝ涙なば下界の人は春雨と云ふ
徒らに老いける人よ長く〳〵戀にふるへてよき歌うたへ
除ろに思へば悲し何となく語はんこそ心やりなれ

島の人

長き戀はてたりしかば忘れ居し故郷等のこひしくなりぬ
けふのごと淋しき時に取り出でゝキスせし文の用なくなりぬ
あはれ世が淋しくつらくなりにけり父老いたまひ我ふりしかば
知れるごと多く語りてある間にも學なきさまは見えて淋しや

近藤なほ子

露こむる八重の汐路に舟こぎてとりのなく音に島を知りけり
鶏のなく聲すなり足引の此山かげに家やあるらむ
ふりつもる雪にうもれて足引の山の一つ屋ともしびの見ゆ

栗原豊三郎

袖かされよゝとしなけば鐘なりぬ母戀しさの夕闇のころ

なし草

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

（氣分劇）より大なる聲

ビー、エス、ワグスタツフ作
みをつくし譯

場。はるかに樹の間を透して街の燈火の雨にぬれて見える、樹立の茂つた森の一端。近所に瀧がある。

時。暗い夜。大雨が降り、時に大風が吹き雷鳴がする。

人。若い男。Allard.
若い女。Alleyn.

男、雨が降つて居る――そして其滴は丁度私の心臓のどん底から流れ出て來る樣だ。

女、雷は丁度私達兩人の魂の叫び聲の樣です。それはあの空を二つにひき裂く樣に思はれます。

男、そして風は地球の表面を搖り動かして居る。

女、丁度地球が何か不意の痙攣のために戰いて居るやうです。ああ、奇妙な恐怖の念が私を壓へつけて來ます……。

男、雨だ、雨だ、瀧の樣に降つて來る。丁度怪我をした赤ん坊の呻き聲のやうだ。

女、あヽ恐ろしい、あヽおそろしい。

男、あの燈火を御覽なさい！ 此の森の中を眞直に射透して來て居ます。あの青白い光にふるへて居る森の樹を御覽なさい。

女、風だ、風だ。私を怯えさせる風が吹いて居る。丁度それは何處かの大きな、巨きな海の呻き聲の樣に……。

男、あなたは小鳥の樣に震へて居ますね、何うしてそんなに怯えて居るのですか。

女、それは私には判りません……おお嵐だ。絕間のない嵐です、それが私を氣狂にさせる樣にこんなに怯えさせるのです。

男、私は今迄にこんなひどい降りを見たことがない。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ゝゝまるで何處かの大きな瀧の樣だ、天が怒つて底を拔いてしまつた樣です。

女、何か不吉な事を豫言する樣な變な氣がします。前に聞いた事もない。

男、雲は丁度兀鷹の樣に眞黑だ。

女、何卒貴方の手をとらして下さい……何故隱る場所が見つからないんでせう？　私達の頭の上の樹が嵐に裂かれて居ます、あれ！倒れて來ます、倒れて來ます。樹の葉が蝙蝠の樣に私達の廻りに散つて來ます。

男、そして雨が——殘酷な雨が……。

女、おゝ不思議な恐怖が私の體を摑まへる。そして私達は二度ともう顏を見合せる事も出來ないやうな氣がします。これが最後の抱擁の樣に感じます……。

男、この狂暴な嵐から逃れる爲め、貴女をもつと〳〵きつく抱かして下さい。私達の樣な戀には永久に終極はありません。

女、何もないと云ふ事には終極はありません。

男、何もない事には終りはない！しかし此の雨には際限がない樣に思はれます……。

女、燈火が無數の星の樣です……。

男、私達の戀がそれだ。無數の星が空に輝いて居る。

女、しかし雨が、此の雨が總てをすつかりかくしてしまひます。全地球は涙の中に浸つて居る樣です。

男、嵐がおどろいた怪物の樣に荒れ狂つて居る。

女、戀を滅ぼす時が來ました。

男、時の大なる深い淵が戀の犧牲を要求して居るのです。

女、いゝえ〳〵、そんな事はありません、そんな事はありません、何卒、接吻を……いえ〳〵、私はおそろしい。

男、貴方がそんなに恐ろしいと云ふのは、戀の爲めにですか。

女、さうぢやありません、何か知らんが大きな聲が私を呼んで居るからです。私は其の聲を雨の降る音の中に聞きます。雷の呻きの中にも聞えます。風の動

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

靜の中にも聞えます。

男、私にも不思議なそして崇嚴な或物が聞えます。

女、丁度私達二人の魂が神樣に面と向つて立つて居る樣です。

男、私は何か恐怖の爲に首を絞められる樣に感じる。

女、矢つ張り貴方にも其聲が聞えるんでせう……。

男、風だ、風だ――風が私達を呼んで居るんだ……。

女、私には無數の鳥が集つてブン〳〵云つて居るやうに妙な音が耳の中でして居ます。

男、私の傍へ おいでなさい――こつちへ おいでなさい。

女、いえ〳〵、行けません――行けません。

男、貴方は喪神しさうぢやないんですか、貴女の顏色は若い月の樣に青白い。

女、嵐だ……。

男、空はまるで金で縁をとつた銀の湖の樣だ。

女、あゝ胸騷ぎがする。

男、雨が瀧の樣に降つて居る、底ぬけのドシャ降りだ……。

女、何か聲が來て私を森の奥の方へ引き込んでゆきます。

男、あなたは決して行つてはいけません、森の中は眞暗です。そこには瀧があります……。

女、私達のまはりは、すつかり鳥の死骸です。落ちて來る木の枝は何だかピク〳〵して生て居る樣です。

男、お互にもつれ合つてる樣な形になつて……。

女、荊棘があつて目を明けられません、まあ眞暗ですね、空も見えませんね。

男、まあ何て風にヒドク荒らされたんだらう。

女、何かもつと大きな美しい聲がする。あゝ、ただ風は樹の枝をひき烈き、雨は絕え間なく、絕え間なく降つて居るばかりだ。

男、御注意なさい――御注意なさい！ あなたの腕から何か滴れて居ますよ。

女、えゝ、今棘で怪我をしたのです。

男、血が流れて居ますね……溫かい雨の樣に。貴女の

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

傷口を吸はせて下さい。

女、さあお吸ひなさい——あゝ聲が……。

男、貴女の血は新鮮な酒の樣だ。

女、貴方の魂が私の體の中へ入つて來る樣です。あゝ私達兩人の 魂 が溶け合つて一つになる樣に感じます。

男、私は、私は戀の爲めにもう氣が遠くなりさうです……。

女、それは、より大きな或物です。より大きな必要の叫び聲です。私達が長い間待つて居た時が來たのです。それは人生が否定して居る怖るべき美——結合した愛が許さない大きな美なんです。

男、雨は丁度結婚式の聖水盤の樣だ。

女、貴方のお口を——唇を！ あゝ私の 魂 が急に飛んで行く樣です。

男、燈火が——燈火が。あつ！ 貴女！ 倒れます！

女、貴方のお口を——唇を！ おゝ冷い星の樣です。神樣が指端でおたたきなさる樣な。

男、おゝ堪へがたい快樂……。

女、苔は結婚式の花の寢床です。高い樹立が私達の上にうす暗い屋根を擴げて四阿を作つて居ます。もう嵐はちつとも私達にあたりません。あゝ私は最早目が見えません。まあ、耳の中で何てガン／＼して騷がしいんでせう！ 雷が下界から聞えて來ます。無數の燈火が私のまはりを飛びまはつて居ます。丁度澤山の螢の樣に——そして柔かい雨が——あゝ降る——降る。嵐が——嵐が——私は風の事をすつかり忘れて居ました——おゝ嵐の中に樹の幹がパリ／＼裂ける音が——さうだ、もつと大きな美の聲です——あゝ、貴方！ 私の名を呼んで——下さい——貴方——呼んで下さい！

男、アレイン！——アレイン！

女、闇の海の上に、冷い吹き洒しの岡を越えて——澤山の星への道を通して。

男、私にはもう……。

女、貴方！ 唇を——唇を。より大きな必要なんです。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

私達の樣な戀のどんづまりは死ときまつて居ます。さあ！　飮んで――飮んで下さい。光と風と吹く空間――そして、金の陽炎の樣に空中に浮いて居る美妙な翼。私の體が浮き上つて行く。私にはもう雨の音しか聞えません――そして瀧の呻りがドウ〳〵云ふのと――そしてザア〳〵降る雨の音と。あなた！あれは雨の音ですか、それとも血の滴る音ですか。あゝ、それが空を汚して行きます、地上の總てを汚します。そして私の――戀しい人のお顏を生々しい傷だらけに――眞赤に……。あそこに――西へ沈んでゆく若い月影があります。あゝ、それも血の樣に眞赤です――あなたの唇を――唇を……。さあ吸つて下さい――吸つて下さい！　聲が聞える……。

男、嵐の狂氣だ……鳥の死骸と黑い倒れた樹――瀧だ――瀧だ……。

（彼は起き上つて闇の中を手さぐりで少し進すで行く）

女、これが死と云ふものなら――死は餘りに美しすぎる……。

（彼は歸つて來て、彼女の傍に膝まづいて彼女の手頸へ接吻する。だん〳〵に死の黑い影が彼女の上に擴がつて來る。瀧の音と、雨の降る音と、嵐の呻き。けれ共其間に怖ろしい沈默と黑い寂寞とが横たはつて居る。彼は立つて森の中へ入り、眞暗な瀧壺の中へ身をおどらして飛び込む。又怖ろしい寂寥に歸る）――幕――。（一九一四―一二―三一）

御守殿門（大學赤門の由來）　島田筑波

遂げるも戀、　遂げぬも戀　網島薄紅

切角書いて頂いたものを、殘念だとも思ひ、失禮だとも思ひましたが紙數の都合で、止むを得ず次號へ殘すとにしました。兩先生の御寬容を乞ふ。

▲新渡戸博士の修養（西川光次郎氏著）

新渡戸博士の名著「修養」の梗概を記し、之に評論を加へたものである。敬文館發行名著梗概。詳論中の一篇である。修養に志せる青年には、好參考書であると信ずる（二十五錢、郵稅四錢東京神田小川町四十一、敬文館）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

駒込ことば

平木白星

○

神を信ずるといふ女は爾に乖背してゐるのだ。彼女は二心を懐いてゐるのだ。彼女は心の眞底から爾を信ずる事を知らないのだ。彼女は何處かに爾を汚辱し輕侮してゐるのだ。畢竟彼女は神に姦通してゐるのである。その癖神を信ずるといふ女性ほど哀れなみじめないやらしい弱い人間はないのだ。爾を神とする妻ならずば、夫たる男よ、彼女は爾に取つて危險だ。

○

『私は貴方を愛する。』女は男に斯ういつた。『併しお斷りして置きますが、それは利己心からの自覺があつて愛するのですよ。愛する事が私に氣持が良いから愛するのです。心に愉快をおぼえるからです。滿足を與へるからです。私は男の戀に殉ずるなんてそんな自己犧牲の想念はこれんばつちもありやあしません。唯貴方を踏んだり蹴たりするよりかも、貴方に溫い情をもつて接する方が貴方の心を得易いからなの、そしてその事が私を幸福にするからなのよ、わかつて？』男は女に言ふ。『わからない。わからないところが好いのだ。あなたはそんな事を自覺してゐるだけ物に拘泥してるのだ。煩はしいのだ、あくどいのだ。そんな理窟を考へるだけ無頓着で無いのだ。私は何もわからないけれど、わからないなりに疾くからその事ぐらゐは實行してゐる。』

○

私は嘲罵されるのがうれしい。私は叱責されるのがうれしい。私は皮肉を言はれたりイヂメられたりするのがうれしい。私を罵らうとして強て大聲をしたり、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

叱らうとして故意に怖らしい顏をつくつたり、充分辛辣な惡口を吐かうとして何か考へたり、みんな私の爲めに幾分の智慧を費やす——或ものは無い智慧を絞る——のを見ると有難く思ふ、奇特だと感謝する。だつて然うではありませんか、おかげで私といふものが此の世に在るのを知覺させられるからだ。我を打て！痛いのは快い。自分の體軀が生存するといふことを自分が感じ得るのだ。

○

ドン・フアンはセビルラ街等の三千三人の婦女を抱擁したと誇る。お人好だ！三千三人の婦女に自から玩弄されながら、汝は一人の婦女をも知り得なんだのだ。

○

我は今日斯くの如く茲に存在す、斯くあるのを他人は傍評して、彼は現在に安んずる、舊習に甘んずるなぞといふ。何とでも批難せよ。私が何故今日かくの如く在るか、そこを能く知つてゐる人は私をトヤカクる言はない。Wie mann wird, was mann isrt 人は如何にしてその在る所に存するか、それを運命と個性との融合だといつた人は、まだまだ言辭が足ら無い。

○

常にこんな事を私は思つてゐる。理窟にも感情にも言葉にも文字にも香氣があると思つてゐる。例へば眞理といふことはツウーンと澁い香がある。「女」といふ文字には甘酸ばい退屈な匂ひがある。

○

男子と婦人といづれが兒供を產むか、昔しは婦人が產むとしてあつた。中世は男子と婦人と共同して產むといつた。それは噓だつた。人間は男の腹から男が產み出すのだ——藻搔き苦しみながら產み出すのだ。

○

私が口を開いて笑ふと、世間の人達は私が可笑しくつて笑つたのだと思つてゐる。欣ばしくて笑つたのだと取つてゐる。成程笑ひたくて笑ふ事もそれは間々あは、併し笑ひたくもないけれど笑ふ事がある。仕方が

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

なく笑ふ事がある。時とすると、自分の表容を自分自身に裏切る必要がある。婦人には最もさういふ時機と場合が多い。

○

馬鹿だ。私の馬鹿はこれ程なんだ。私が十五六歳の頃のこと。自分が戀をしてゐた年長の或る女（現在は某地方裁判所長の夫人となつてゐる）に手紙を書かせられた事實がある。私がその女の代書をして認めた手紙はマア何處の誰へ遣るのだと思ふか、それは其の女の好い人に遣るのだつた。私は自分が大變薄野呂のやうにも、また大層偉大なものゝやうにも思はれた。けれど實は二つながら間違つてゐたのだ。私は自分の作つた章句と、自分の書いた文字で、自分の戀する女の好い人をして、自分が戀する女に、ヨリ強く戀愛せしむるやうにと兒供心に一パシ骨を折つたものだ。私は昔時からこんな馬鹿なのでございます。生憎その書翰の差出人と受取人はその後幾くもなく別れ話になつたと聞いた時、私は何となく飽足らないやうに考へた、濟まないやうに氣がひけた。私はヒヨツとしたらあの手紙の中に、女の好い人を怒らす樣な文句を插みはせなんだらうか、否そんな事はなかつた。可なり苦慮して書いたのだからさうした筈は無い。たゞあの文句を作つてやつた時、幼い心の底の底では二人の戀を呪つてゐたことだけは確かだ、それ故に仲違ひをしたのではないかと、大罪惡でも犯した樣に私は小さな胸を痛めた。私といふ男はこんな馬鹿なのだ。

○

私は自分の性質と極く反對した女に逢ひたい。そんな女と同棲したい。最初は自分と氣心の合ぬやうな女も、一月か三月、一所にゐると直に自分と同じ心性に變易して終ふのが物足りないアッケない。何故女といふものは最後の瞬間まで男の心に反撥できないのだらう何故男に同化しやうと努るのだらう。何故男は男自身の氣質と異た女を愛すといふ事を知らないのだらう。克服され易い野蠻人で女はある。千變萬化し能ふ動物で女はある。能く能く自由が嫌ひの生もので女はある。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

臺所の革命　蒸汽炊事器

一家の經濟は臺所にありといはれて居るが、日本の家庭ではその改良も魚燒器とか飯蒸器とか部分的のものが多い舊思想の家に至つては夫すら中々改良せられず依然として

△不便不經濟 狀態に停滯してゐる。然るに今回赤坂溜池停留場前山崎喜一氏が苦心に苦心を重ねられた結果漸く蒸氣炊事器を完成し、將に臺所に一大革命を起さんとして居る。此器は中央に圓筒形の火室を設け、其火室内に多數の水管を通じて、火室を圍つて設けられた蒸氣釜内の水と通じさせてある、火室の下方で瓦斯又は薪をたくと火室の上方に掛けた

△炊器が熱せ られる、又一方水管より蒸氣釜に盛んに熱が傳通し、蒸氣釜の水は迅速に沸騰して蒸氣を作る、此の蒸氣を二つの管によつて他に自由に通じる仕掛になつてゐる、米と水を入れた飯櫃にその一つの管を通じ、又他の一管を鍋の中に挿入すると三種の煮炊物が一度に出來るのである。安全辨によつて

△熱度が自由 に調節される、そして至つて簡便で體裁がよい。火室の上で二升の米が十立方寸の瓦斯を以て十八分で炊ける、同時に他の二管も同樣の働きをなし、薪ならば普通の薪四本で二升五合の米が三十五分、炭では一錢五厘で同樣の時間で煮たり炊ける。山崎氏が此發明を思ひつかれたのは、明治四十二年

△朝鮮統監府 の法部主事をして居られた時で、遊びといつても他に道がないので友人を招いて御馳走する、然し時間や器物の不便な上に煮物がこげつく、何か工夫が無いかと考へ初めまづ茶筒に水を入れて沸騰させその蒸氣を筆の軸で導びた、次に澤山の穴をあけて蒸氣は距離の長短によつて熱度が違ふが排出口の大小によつて平均させ得る事を知り、それから

△種々苦心を 重ねて、如何にもして完成せんと決心し、三十三年六月斷然職を辭して出京したが資金は無い、完成迄は決して他人の助力を受けぬ決心なのでその苦心は一通りでは無い、一粒の飯も食はぬ日や公園の樹の下に寢た夜は一度や二度でなく、しみ〴〵と

△嘆息の聲を 洩す事も幾度かあつたが郷里佐賀縣の小學校に奉職してゐる一人の令妹が小遣錢を割いて送つては、慰め且つ激勵されるに奮ひ立ちつゝ、研究を續けられ遂に今回完成するに至つたのです。時と金との經濟になる此の炊事器の御使用を皆樣におすゝめする。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

乳ののませ方

至誠病院長　吉岡彌生

子供を育てるのには母乳が尤もよろしいのは云ふまでもありません、それは自然に其の子供を育てる爲めに出るので、子供の成長につれて、自然々々に必要なる精分が出るのと、溫度がいつも平均して居るのと、體内から直接吞む爲めに外氣に觸れず、黴菌の入る餘地がありませんからです。然かし如何なる場合にも母乳がのませられるとも限りません、母親の病氣、職業の關係などによつて、止むを得ぬ事がありますから、どんなに母乳の多くある人でも、差支の起る準備として、一日に二回は牛乳をのませておくがよろしい、でないと急に必要が起つたからとて決してのむものではありません。

授乳の時間は、最初は二時間半毎にして二ケ月後には三時間毎にし、夜分は眼をさますまで何時間でも寝さしておくがよろしい。そして一晝夜に七回位ですめばよろしい。そして八ケ月間は乳ばかり與へるのです、七ケ月の初めから歯が芽えて來て、二本頭を出す頃はもう澱粉を消化すると云ふ印ですから、八ケ月の始めからおもゆを一回一合づつ二度食鹽を少し入れて與へ、乳は日に三回位にするのです。

九ケ月になるとおもゆをおまぢりにするのです、おまぢりと云ふとお飯粒のふわ〳〵ういてゐる樣なのです。

十一ケ月からお粥にお魚の鹽燒、煮つけ、野菜ものも少しづつやる。

一ケ年以上になればお飯を與へ、一ケ年半で母乳は離して了ふのです。早く乳離れした子は弱いと俗に云ふのは此の乳離れをおもゆから用意しておいて、順々

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に馴らして離さないで、急に止めさせて、乳離れの時病氣をさせたりして、其の爲め弱くなるのですが、一ケ年半もして母乳を試驗して見るともう成分が變化してゐて子供の爲めにも何にもならない、徒らに親を弱らす丈けです。

又母乳が尤も適して居るけれども例外がある。例ば母親に心臟疾患、精神病があるか、産後の脚氣、腎臟炎などがあれば絶對に授乳は出來ぬ、よく不消化を起してゐる子供の母親を見ると此等の病氣があります。又何と云ふ病氣はないが母乳に滋養分のないのがあります。十一月生れた子で、瘠せこけで、生れたまゝの五百目位しかない子があつて、母乳をしらべて見ると何も病氣はないが、滋養分がない、いくら滋養を取らせて見ても、肉や血になつても乳には出て來ない、乳は別に乳腺と云ふのがあるので、乳腺の故障かどう云ふものかと思つてゐます。

若し母乳の與へられない場合には、其次には乳母の乳がよろしい、どうしても人の乳がよいのですが、これには乳母が生母とほゞ年齢が同じである事、出産もあまり違はない上に、醫師に見て貰うて健全で乳のよい事が肝要です、それも事情の許さぬ時は牛乳でも羊でも同じです、羊の方がよいと云ふ人がありますけれど、さう云ふ事はありません又牛乳の方が得られ易いのです。

牛乳のうすめ方は、生後二週間は、一と三の割合で牛乳一合から水三合にして、それを一回に五勺の半分與へ、一ケ月半迄其の割で一回の量を四勺位の程度にする。

一ケ月半過ぎると一と二の割合から追々こくして、四分六分の割にして、一回六勺乃至七勺八勺として三ケ月まではそれでよろしい。

五ケ月になると當分の牛乳、つまり乳一合に水一合。八ケ月までは牛乳を少しづつ多くして、八ケ月には純乳にする。

其のうすめたのを殺菌するには一回に與へる丈けづつ一瓶に入れてするのです。もし飲み殘した場合には

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

すてゝ了ふか大人が飲んで了ふかよい、殘しておいて飲してはいけません。殺菌は二十五分も三十分もしなければ、ならぬと申しますが、そんな長時間すると成分に變化を起し不消化になるから、五分間で澤山です、大學では二分間しかしない、けれども素人には二分間と云ふと少し危いし、五分間位しても變りはないから、五分間位はするがよいのです。

殺菌した後は鑵の水をこぼし、急に冷やすと瓶がこわれるから、少し殘しておいて、水を入れ又こぼして水を入れ、幾度もしてすつかり冷やしてから、水をきつて冷たい處に貯へておくのです。それを與へる時は一つ〳〵湯煎にする。

第四にはコンデンスミルクですがこれは殺菌もさうしなくてもよい、最初は十四倍にする、六倍にして牛乳と同じですから、牛乳の割合と同じくダン〳〵うすめて行けばよろしい。

一回の分量も同じ事で五ケ月頃から一合のますのです。

ち〻の粉などと云ふものを牛乳よりよいなどと云つて用ゐる人があるけれども八ケ月以下は絶對に駄目です、歯の生えない前には唾液が出ないから澱粉質は消化しない。又一ケ年半經たずとも次の子供が出來、母親が姙娠すれば止めなければならぬ、成分が變つて何にも成らぬ、多くお母さんのお腹の大くなる頃に子供は消化不良を起すものです。乳の成分が恐ろしく惡くなるからです。

寫眞

讀者の方が、御遊びにお出で下さつた時、よく本紙の記者、寄稿者、賛助員の方々に就て、お尋ねがあるので、編輯室へ、右の方々の御寫眞なかゝげて置く必要を感じましたので、皆様へ御願してソウ云ふとにしようと思ひます、何れ其の内にお願ひに出ます。

（文子）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

生花について

尾崎恒子

三月の花は何かと申ますと、誰しも桃や櫻を第一に擧げます。けれど其の實はさうではないのでございます。

懸樋の氷のやつと解けたばかりの此の頃の三月には淡紅色のなまめかしい櫻の花や、美しい舞姫のやうな緋桃の花は、まだ咲き出る時季でないのです。大陰暦の頃の三月三日は、桃の節句と申た位、桃や櫻の眞盛りであつたのでございますが、今の三月はまだ〳〵そんな華やかな花は、一つも咲き出しませんのです、尤も盆栽や切花なぞには、桃も櫻も海棠も、咲かせてありますが、それは皆な人工的に溫室や地室で咲かせたつまり不自然の花なのでございます。

で私は是から其の月〳〵の生花の談話をしやうと致しますが、まづ其の前に一寸家庭と生花、女子と生花、學校と生花と云ふ事を少しくおはなし致し度いと思ひます。

現今では上中下如何なる階級の家庭でも、恐らく生花を用ひて居ない家は無いと云つて良い位です。然し私の目から見ますと、如何にも其の用ゐ方が不自然で不調和で、むしろ滑稽に見える事が、まゝあるのでございます。

違ひ棚に疊床、黒塗椽の絹襖と云ふやうな立派な書院の床の間に、高價な古銅の花瓶まで、ちやんと据ゑてありながら、其の中には梅は御座れ、丁子は御座れ椿も良しで、何でも彼でも、やたらに押込んで、丁度場末の花屋の看板のやうに飾りつけてある家がある、——是れでは美しい花の風情も餘情もあつたものではありません。と思ふと又書齋、應接室、談話室兼用の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

せまい六疊間の半床に、お花ばかりが馬鹿に大げさに飾られて――特に春などですと、梅の枝は彼方の壁を突ついてゐたり、此方のお客の袖をひつかけたり、生花あるが爲めに主人も客も、とんだ窮屈な思ひをする事があるのでございます。

過日も、ある上流の家の晩餐に招れて行きました處食堂の中央の大テーブルの上には、七寶燒の立派な壺に、大きな黒松が、それは〳〵お手ぎわ見事に生けてありましたが、惜しい事には、餘りに其根ごしが高すぎますので、椅子に寄て居ります私達の目先には、青青した松の葉一ト枝だも映らないのです。之では折角裝飾にする生花――人の目を娯ませるための生花も其の用を成さないのですから、其處は注意次第でさう云ふ事のないやうにして頂き度いのでございます。

又近頃では大抵の女學校で古流とか池の坊とか云ふ流儀の生花を科目の内に入れてあります。それは誠に結構な事でございますが、敎授法が餘りに專門的でありますために流儀にのみ拘泥してゐて、兎角應用の利かない範圍のせまいものになつて了つてゐるのでございます。例へば竹筒に生ける花は習つたが、籠に投入の花は敎らなかつたから揷す事が出來ないと云ふやうな女子が近頃の女學校卒業生に澤山あるどころではない大抵がさうなのでございます。師匠に就て其の流儀〳〵を研究しやうと云ふ者は別として、一般の女子敎育の科目としての生花は、もう少し自由にもう少し實際的に應用の出來るものとしなければいけませんのです

そは兎も角も、三月に咲く花はどんな花かと申せば、雪解の路、黒縮緬の羽織、薄齒の吾妻下駄などに相應しい氣分の色も姿も粋な、茶がつた蠟梅、山茱萸、稔蠟樹、蓮翹等の黄色花なのです。又草花でも、パンゼー、菜花、黄水仙など、いづれも黄色を帶びた花の咲月なのでございます。まだおはなし致したい事は澤山あるのでございますが近頃少く多忙で御座いますから今回は是丈としておきまして次回からは誰にでも出來得る極く簡易な花の揷方或は四季にうつりかはる花の種類、其水揚法、養ひ方等を詳敷おはなし致します。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

吾が足跡

紅花

良人は今夜は宿直で歸られない、私は一人で簡單に夕飯をすましてすぐ星子を寢し付けた。珍しく靜かな夜である。萬籟寂として聲なく、星子の寢息が微かにきこえる。私は今日父の許から來た手紙を又繰り返して讀んで見た、涙は無意識に頬を傳ふ、さうだ昨日か今日のやうに思はれるけれど家を出てからもう二年になるのだ、思へば自分の過去は波瀾多き道程であつた。靜かに來し方を顧れば感慨は無量である。

私の家は東京府下の或る町で、第一と言はれる資産家である。私は父の五十才に近い時の子である上に、後にも先にも一人ぎりなので父母の寵愛をほしいまゝにして育つた。殊に父は目の中へ入れても痛くないと言ふやうな可愛がり方で、私の云ふ事ならどんな事でもきいて呉れるのであつた。母は父よりも二十も若くて、並よりもふるく見える父とはまるで親子の樣に見えた。母は後妻である、先妻には子供がなかつたさうだが、二十年も連れさうたものを離縁してしまつて妾であつた母を本妻にしたのださうである。その人は離縁されるとぢきに氣が狂つて毎日來ては氣味の惡い事を言つて居た相だが、しまひには私の家の小さな池の中で死んでしまつたとの事である。母が私を産む時非常な難産で、見てゐる事も出來ない樣に苦しんだ相だが、先の奥さんの怨の一念だと人は言つたといふ事である。私は誰から聞くともなくこんな事を知つた、卑しい母の生れも知つた、私はそんな事を思ふと母が嫌に思はれた、いつもお化粧して髮でも着物でも意氣で素人とは思はれない樣な母を見るともう嫌で堪らなくなるのだつた。自分の母では無いやうにさへ思はれた

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

あんな有情しい父だから先の奥さんを離縁したのだつて父の意志では無つたに違いない、きつと母がいゝやうに父をだましたのだろうとそんな事も思つた。

十九の春 私は東京の女學校を卒業した。長い間寄宿舎にばかり居たので、父母はもう私の卒業を非常に待ち兼ねて居たのであつた。併し私は家に歸り度くなかつた、母と共に暮し度くなかつた、私は尚東京に居て勉強を續けやうとしたが、そんな事を言はずにもう家へ歸つてお呉れと、泣くやうに言ふ老父の言葉をきいては、それでもとも言へないのでやめてしまつたのである。

卒業後私は父母の云ふまゝに生花と茶の湯の師匠の所へ通つた。母はどうして私を美しくしやうかと毎日私の身の廻の事にのみ頭を悩まして居るのであつた。私が身なりなどすこしもかまはないで、書物や寫眞機のやうな物を買ひ寄せて樂しんで居るので、母は一人でやつきとなつて、なんて云ふ妙な子だらう、人がこんなに氣をもんでるのに、自分でもちつとはその氣になり想なものだと、よくこんな叱言を言ふのであつた。

その年の秋の初である。私はどうしたのか毎日氣が重く頭痛がして寢たり起きたりしてゐた。心の底に物足らぬやうな一種の寂しさを覺えて、怏々として暮してゐた。淋しいやるせない感じは日を重ねるに從つて段々と芽を出し莖が延び葉が茂る樣に思はれた。神經が鋭敏になつて夜どうしても眠られない事がある、どんな事があつても決して泣かなかつた私が無暗に泣けて仕方がない、或は秋と云ふ期節からかも知れないが併しそればかりでもないやうだ。神經衰弱に罹つたのかも知れないと思つた。

慰安がないからだ、それがいけない、こんな事も思つた、それで私は友達を訪ねたり書物や雜誌を買つたりした、女中たちと一所に仕事をしたりした。併し絶ず自己を解剖し省察し批判せずには居られない私にはそんな事をして强ひて他人に同感し共鳴しやうとしても駄目であつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

秋も終る頃には自分を圍繞して居る沈鬱な空氣が疲れ衰へた心に、堪へられなくひゞくのであつた。夜も益々眠られない、その時自分でももうどうする事も出來なくなつたその時であつた。憂鬱な私の心に無限の光明をあたへて呉れたものがあつた。私はその頃近くの基督教會に、水曜と日曜には缺さず行つたが、その度に顏を合せる一人の青年と相知つたのである、その青年はよく自分の實驗談などをして、熱心に人々に悔改めをすゝめて居た、私はいつからともなくその青年と親しく話しなどするやうになつた。その青年は私の近くに住してゐるので、今までも知らないのではなかつたが、言葉などかける事は一度もなかつた。青年は家も貧しくその上新平民であつた。人からさげすまれ卑しめられて、殆んど人間の樣には思はれて居ない新平民であつた。けれ共彼はそんな事はなんとも思つて居ないやうに何時も愉快相な元氣な顏をしてゐた。私は青年と度々會つて話しをするうちに、非常に好になつた好でたまらなくなつた。明るい男らしい顏、力の漲つて居る樣な立派な體格、私はその青年のどこも好きであつた。私の心は今迄誰に對してもかつて覺えなかつた程の優しく女らしくなつて心の底から此の青年を愛した。人生の眞に意義あるライフに觸れた私の喜びは、たとへやうもなく心も晴々して來たのである。その時分もう私は青年と文通してゐた、教會からの歸途二人で散歩する樣な事もあつた。併し私は自分が彼を愛して居る事を決して彼に言はなかつた。何の思ひもないやうな彼に、這麼事を言ふのは勿體ないと思はれて心に深く秘してゐた。

或る時青年から長い〳〵手紙が來た、それを讀んだ時の私の心、實に今思ひ出しても胸が痛くなる樣だ。人を戀する事など出來ない私が、雲泥の相違とも何とも何とも言へない貴女に戀するとは、何と云ふ事であらう、身も心も神に獻げて、生涯獨身で暮さうと固く決心してゐたのに思はず這麼な事になつてしまつた、かなはぬ戀に私はどの樣に煩つたであらう、苦しんだであらう、併し私は諦めます。さうして此地を永遠に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

去ります、貴女の幸福を祈るとこのやうな事が書いてあつた、私はすぐ彼に逢つて心の中を語り、私を連れて行つて下さいと迫つた、彼は驚いて固くこばんだが私はなんでも彼の行く所へ行くと云つた。

　かうして私は二月末の或る寒い日、彼と共に故郷を逃れたのであつた。此の地に貧しい併し暖かい樂しい家庭を作つてから一年十ヶ月、此夏星子が生れてからは家の中は倘々樂しくなつた。今迄には種々困つた事や情けない事があつたけれ共、私は自分の之れ迄の行爲を一度も後悔した事はないのである。併し私は決して父を忘れたのではない、父はどんなに力を落したらう、淋しい事であらう、私はそれを思ふといつも壓しつけられるやうな苦しみを覺えるのである。それに良人と相談して、家を出てからの事などこま〳〵と認め星子の可愛らしい寫眞をそへて父の許へ送つた、今日來た父の手紙はその返事なのである。父の手紙は私を責める樣な言葉は一言も書いてはない、手紙を見て安心したと云ふ事、星子の可愛らしいと言ふ事、どうしても家に歸るやうにと云ふ事が繰り返し〳〵慈愛のあふれるやうな言葉で書いてあるのであつた。あゝ私はもう何も思ふ事はない、近い冬期休暇に故郷に歸れるのである。この手紙を見せたら夫はまあどんなに喜こぶ事であらう。

　懷かしい追憶にいつのまにか夜は更た。靜かな〳〵夜である。

風味會

二十年來、食糧品販賣に經驗ある星野氏は今回風味會と云ふのを起され、日本全國又は諸外國の海陸物產の中から、季節に應じ、特に風味あるものを撰んで、（月に二回十日と二十五日）にこれを會員へ配達することを始められました、かう云ふ會の配達品は品は珍らしくても、兎に角高價に過ぎる場合が多い樣に、思ふ人が多いが、實は直接製產者から取よせて配布するとか、又物によつてはひろめの爲に特別割引さるゝことなど、さま〳〵の便宜を與へられるので、多くの仲介者を要する店から取るより、材料も非常によくて廉價なのです、私も入會しましたが、壹圓では配達品があまり結構過ぎる樣です、（文子）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

中村高等女學校を訪ふ

文子

深川の中村高等女學校の戸野校長さんは、九人のお子さんを育てながら、校長としての公職を完全に務めてゐらるゝと云ふ事を、嘗て聞いて居たので、職業婦人の増加しやうと云ふ今日さうした婦人の爲めに、參考になる育兒の簡易なお話もがなと、二月二日のいと寒い日にやつとお尋ねする事が出來ました。

先生は同校は深川の中村濟藏と云ふ方の養子である中村郁次郎と云ふ方の設立で、同氏は隨分教育に熱心な方で、三十六年から技藝女學校をつくつて居らつした所が、日露戰爭の後女子教育が盛んになり、川を越えて通學する人が增えて來たので、女の子が川を越えて行くのは危險だからと云つて、深川女學校と名づけて高等女學校程度の學校を立てられたが、まだ校長がなかつた時、丁度私が支那から歸つて來て遊んでゐたので、師範からの話で來る事になつたのです。初めは生徒が十一人しか無かつたのですが、兎角私立學校は經費の不足に困つてやり切れないものですが、中村さんは御熱心な方で、必要なものはあれもこれもと整へて下さいますので、私どもは何の心配もなしにかう盛んな學校にすることゝが出來ました。

三十九年から四十二年にかけて校舍が新築、文部省の認可も得たのです。

子供を育てますには、奈良の女學校で教頭をしてゐた頃は、校舍の近くに住つてゐたので、守が學校へ時を定めて乳をのませにつれて來ましたが、その他では留守中は牛乳をのませて來ましたが、母が居るので家の事は一向差支へません。いろ〳〵氣をつかつた爲めに、乳が出なくなり、夜分など牛乳を暖めたり、するのに困つたのですが、お伽ランプ（鐵の樣なものゝ中に下に普通の豆ランプがあり上に湯沸しをかける樣になつてゐる）と云つて、下の光りを明るくするとなほ湯があつくなる、至極重寶なものです、その爲めに大變な便利を得ました、今は曉ランプとか、何とか云つて賣つてゐます。と談られた。其のお伽ランプの賣物や、先生の發明された、お飯むしの中にトタン板に孔を明けて拵へた極手輕な殺菌器など育兒の衞生に就ての實物教授用のものを澤山に拜見して大變參考になりました。

奈良の話からいろ〳〵お話を伺つてゐる中に先生もやはり京都の府立第一高女の卒業で、私などより二十年も以前の先輩である事が分り、舊い恩師の話がそれからそれへと出てなつかしく思ひました、まだ〳〵伺ひたいと思つた事ももう改まつて聞かれなくなつて歸へりました

女と調和

白露

五月頃、雨あがりの夕方、潤ふた宵の空氣を通して、瓦斯の光に青白く、すつきりと描き出された、ネルの着物を着た女の姿、そよ吹く涼風を袖にして、白く浮き出た浴衣の、月の下の女など、成程と思へる時もある。が然し、彼等の其美其の艷麗は必しも獨立したるものではない。少なくとも其衣服裝工合のみによつて現出されたものではない。彼等のしかく余等の眼に映ずるは、人工的努力卽化粧裝飾などの自然と調和せられたる時である。座敷に居る女は少くとも其床の間、室内の裝飾と彼女。其服裝と容貌、風姿と坐蒲團、擧動と足袋、との間に調和を見出さなければならない。自動車の中の女は其自動車と調和し得る氣品、服裝、態度を保たなければならない。

調和、卽ハーモニー、は凡ての事々物々に必要なる要件である、而して充分なる要件ではないことは勿論である。文藝、繪畫、彫刻、劇、凡て調和を缺くことは許されて居ない殊に「女」に對する「調和」は最も必要なる文字である。

年若く、皮膚美しく、氣輕なるべき時代にある娘が其自らの年に不調和なる時は「娘らしく

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ない女」となる。

若し以上述べた事に間違がないとせば「女らしい」ことが最も必要なことゝなつて來る。

運命に弄ばれ乍ら、美しき戀を追ひ乍ら、ゐる女は其等に對して弱い女らしい努力を續けてゐるところに、同情がある、美がある、女の生命がある。

八百屋お七は無分別な女だといへば云へる。如何に兩親の監督が嚴しいとても放火までせずとも戀人吉三に逢ふ手段はあつたであらう。天和元年の年の暮の火事、吉三との會見、兩親の處置、將にお七は運命の綱にぐる／＼と兩手を卷きつけられたのである。而かも心は吉三の傍にある、無分別とは云へ、お七の其時に於ける最後の運命に反抗した努力が放火なのだ、放火は重罪だ。が其處にお七のお七たる美がある。生命がある。若い娘の悶えた頭から出た策だ。放火と煩悶と女の努力とは天和年間の當時の女として調和した出來事ぢやあるまいか、否少くとも美しい戀物語に調和した女ではあるまいか其女の物語を讀む人は皆、お七は可憫だと云ふは、其或る點に調和を見出し、各自の胸と共鳴した點があることを證するのではないか。義理と人情との衝突の際に起る恐ろしき渦中に投ぜられた女と其女のあはれな薄命の身より出ずる努力とは近松の作物中によく調和されてゐる。誰か近松の作を讀んで嫌忌の情を起すものがあらうか。一面より考へてみれば、女房子供を見捨て一藝者小春に迷ふた紙治は現今新聞の三面記事の種。正しく嫌忌すべき事實ながら、一度近松の手によつて調和を與へられた以後は、情緒に富んだ、優しい物語りとなり得るのである蓋し近松の腕に依るところなれど、女を其時代境遇、義理、人情の渦の威力などに調和せしむれば心根の優しいおさん、美しい俠氣な小春とを作り得るではないか。

再び云ふ「女」に對する「調和」は最も必要な文字であると。

本社の相談部

▲本社内に相談部を設け

(1) 職業を求むる御婦人
(2) 職業の選擇に迷ふ御婦人
(3) 家庭及び一身上に苦悶ある御婦人
(4) 結婚の事

等の御相談に應じます

▲相談部の主任に面會したき御婦人は、午後御出で下さい。

新眞婦人定價表（毎月一回一日發行）

一冊（郵税共）	拾壹錢
半年分（郵税共前金）	六拾錢
一年分（郵税共前金）	壹圓拾錢

御注意 ●注文は總て前金の事前金盡くれば必ず「盡」の一字を朱にて帶封に認む直に送金なき時は發送を停止す●郵券代用は壹錢又は五厘切手にて一割増

◎新眞婦人廣告料 特別面三十圓、一等廿五圓、二等二十圓、普通面十五圓、木版を要するものは別に實費を申受くべし

大正四年二月廿八日印刷納本
大正四年三月一日發行

本鄕區駒込林町二〇六番地
發行兼編輯人及印刷人 西川文子

本所區番場町四番地
印刷所 凸版印刷株式會社分工場

東京市本鄕區駒込林町二百六番地 新眞婦人社 郵便振替貯金口座東京（二四五五六）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

職業婦人とお化粧

新眞婦人社で或御婦人を某會社の外交員にお世話いたしました、其の方のお話に

『これまで外出しなれない私が毎日〳〵寒い風もいとはず、出かけたので、顔は皮がむけた樣に、一面にはたけが出來て、かさ〳〵とまるで山葵おろしの樣になりました。さま〴〵の藥を用ゐても、一向ききめがなく、氣がひけてどうにも立派なお宅へお伺する事が出來ず、又お伺しても臆面もなくお話する事が出來ず、少しも成績が上らないので、もう悲觀して、止めやうと思つて、しを〳〵と歸つて來ますと、新聞賣が『美人となるホーカー』と赤く書いたビラを下げてゐるのを見て、ふと使つて見る氣になり、買つて來てお湯に入りペタ〳〵とつけ、一夜の中に治したいと思つて一生懸命にぬり〳〵して寢ました、ぬりながらプンとする懷かしい香をかいだ丈けでも美人になつた樣な氣がしました。かさ〳〵の皮は見てゐる中にベツタリと落ついて、すべ〳〵と滑めらかになり、撫でゝ見ればつる〳〵と他人の顏かと思はれる樣でした。

朝起きて見ると又一段と見違へる程色が白くなつた樣な氣分がしました。それに元氣づいて、毎日〳〵ホーカーを愛用して居ますと、自信が出來て、ひけを取ることも、恥かしく思ふ必要もなくなつて、今日の樣な立派に成績が上る樣になりまして、やつと安心をしました。』

と申されました。

成程仕事をするには學問も、腕も、意地も、根氣も、必要でしやうが、それ等を立派に活用させるには、先づ顔色が第一ですから、お化粧と云ふ事は身だしなみとしても、是非しなければなりません。こて〴〵とけば〳〵しく濃い白粉をぬりたてるのは如何かと思はれますが、きめをこまかにし、地質をきれいにし、且つ氣品の高い匂を持つたホーカー液を常用するに限ると思ひます。

簡易

美顔術箱

特價金參圓五拾錢
送料金拾八錢

五種攜帶用美術箱入

内容
マッサージ、ルーラー 一具
カツピング、カツプ 一具
フエシアル、ブラシユ 一具
マッサージ用クリーム 一瓶
ハイジエニツク、クリーム 一瓶
使用說明書 一部

美顔術が美容と健康に偉大の効果あるは今更申上ずとも既に一般の事實です、唯口惜いのは遠隔の地に御住ひの爲に思ふ儘この幸福を都人と同様お受け遊す事の出來ぬ一事です、今回右の事情に鑑み何人にても簡易に東京にてお試みになると同じ効果ある美顔術箱を御分ち致します

効力 にきび、そばかす、吹出物は勿論お顔のしわをのばし常に生々たる自然の色艶を出す

○說明書二錢切手封入あれ

深き自信を以てお進め致します

お若い方に殊に御婦人にニキビ、吹出物の出來ました位醜いものは御座いません、其に付て私共でも商賣柄の責任上常に非常に苦心をいたし良薬もがなと存じて居ました所今回幸にも其目的を達し、偉大なる効力ある逸品を得まして皆様に御報告いたす事を心から喜んで居ります

特長と効力
本品は普通薬品と其類を異にし、未だ日本に無い化粧用のクリーム體になつて居りまして、ニキビ、ソバカスを全治するは勿論、ナマヅ、タムシ、ハタケ、赤鼻等にも驚く可き効驗を有して居ます、其上冬分あれ止用として二重の効果があります

ニキビ取用 理容クリーム

(アルミユーム容器入) 一罐 金五十錢 送料八錢
特製 金壹圓 送料共

東京新橋竹川町十二、 美顔術婦人御化粧所 理容館
電話新橋一五一九
振替東京一四一〇〇

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

東京帝國大學講師
ドクトル 荻原雲來先生著

梵漢對譯佛教辭典

菊判約七百五十頁
定價金五圓
郵税金拾貳錢

▲三月三十日まで特價四圓郵税拾貳錢▼

本書收むる所顯密二致の法數名目を始め經律論三藏中の學語は勿論佛菩薩天龍八部天象地儀山川草木飲食器皿數方時より動詞副詞に至るまで語數甚だ豊富にして單に佛教辭典としてのみならず又梵漢辭典として未曾有の寶藏なりこれを以て佛教を知らむと欲するもの梵語を學ばむと欲するものは言ふまでもなく一般語學者印度文藝の研究者に取りては亦唯一無二の寶典なり

特色
(一)本文の語の出處を明記し(二)注釋の部に於ては幾多梵語學上の疑難を論究證明し(三)梵語索引と漢語索引とを附して古來の成譯語より梵語を求め梵語より漢譯語を求むる者の便に供し(四)法數名目索引をも附加したり

荻原雲來先生譯補
阿滿得壽先生著
梵語入門　定價一圓 郵税八錢

悉曇阿彌陀經　定價一圓 郵税八錢

立花俊道先生著
巴利語文典　定價一圓 郵税八錢

高楠木村兩先生共著
印度哲學宗教史　定價二圓 郵税十二錢

東京小石川區原町 振替東京一五六八六 丙午出版社
東京小石川原町 振替東京一三三 鷄聲堂

東京市麴町區內幸町一丁目三番地
電話新橋長二一〇〇、二一〇一番
振替貯金口座東京一八、九〇〇番

太平生命保險株式會社

社長 中村靜嘉
專務取締役 楠秀太郎
取締役 村井貞之助
取締役 內野五郎三
取締役 前川善平
取締役 倉知誠夫
取締役 左右田棟一
取締役 舟木錬太郎

監査役 潮田方藏
監査役 左右田信一郎
監査役 中田敬義

陳者當館要用賣藥を發賣しゝより既に三十餘年今や全國顧客を網羅せり願れば當館は其昔より大廣告を以て人心を收攪せんとするが如き策は採らざりき。人の弱點に衝き入りて名利を得んとする一派あり世之を呼んで人氣取となす豈に單に廣告社會のみに限らんや然して所謂人氣なる者は瓦斯に掛けたる湯の如く急に冷えて頼みがひなきぞ是非もなし故に其行を陋とするは勿論覆轍に鑑む可や切也當館此心を以て江湖の諸君に見えんとし今般下に列記の賣藥を高覽に供せり何なりと御入用の物あらば陸續御注文あらん事を乞ふ尚ほ御不審の點は遠慮なく御照會せらるべし

東京神田五軒町十九番地

本舗日新館藥房

電話下谷局五四六番
振替東京壹九貳四六番

藥名	效能摘要	定價
一、色白新劑（いろしろくなるくすり）	ありふれたる什粧水にあらず強烈なる色白劑を配合せる化學的新劑也又優雅高尚なる芳香幽に薫蒸す	並製 壹圓貳拾錢 特別製 貳圓貳拾錢
二、理學證明 毛生新藥（ヘアーグロース）	禿頭病やけどのあと等凡て毛のあるべき處になき人用ふれば遂に着々と發毛す無毛患者迷はず試みよ	小瓶壹圓貳拾錢　中瓶貳圓貳拾錢 大瓶五圓參拾錢　特製拾圓參拾錢
三、腋臭必治劑（わきがぐすり）	傳染と遺傳とを問はず如何程の難症わきがにても病源を絶對に變質せしめて再發等の憂毫もなし	小劑壹圓八拾錢　輕症用貳圓八拾錢 重症用五圓八拾錢 慢性症用特別製分拾圓八拾錢
四、月やくおろし 通經劑	無害で苦なく下る但し血塊症には特製を用ひよ又用心に服せば月經閉止せず▲子宮病血の道なども治す	壹劑九拾錢　貳劑壹圓六拾錢 參劑貳圓貳拾錢　特別製貳圓九拾錢 頑固症用特別製分五圓參拾錢
五、美容やせる藥（ヨードチリン）	むく〳〵と肥えたる人。のぼせ症卒中症等の人々之を用れば適度にやせ永世美容健康を保つことを得	壹劑參圓貳拾錢 貳劑六圓拾錢 特別製九圓拾錢
六、補血增進 ふとる藥（ヌクレイン）	貧血症の人肺病肋膜其他病後の恢復又老後の衰勞等に用ふるを適當とす	壹劑參圓拾錢 貳劑六圓拾錢 特別製九圓拾錢
七、淋病新藥 淋滅（りんめつ）	淋病消濁の病源たるゴノコッケンを滅殺すべき新藥を主劑として配合したる斷病唯一の特效藥なり	壹劑壹圓拾錢 貳劑貳圓拾錢 特別製四圓拾錢
八、梅毒新藥 ドクトル	一身は更なり子々孫々に傳はり一門病魔に苦しむ厭ふべき難症梅毒も悉く病毒を下し後に遺るとなし	壹劑壹圓拾錢　貳劑壹圓九拾錢 參劑貳圓六拾錢　特別製五圓拾錢
九、生殖器病新藥 トニチン	種々の原因より來れる神經衰弱陰萎病生殖器障害諸症不姙症發育不全等の良藥として普く稱贊せらる	試用劑貳圓　輕症用五劑九圓五拾錢 重症用八劑拾四圓五拾錢 慢性症用拾參劑貳拾參圓
十、癩病新藥 レプロイス	らい病も一種の黴菌が作用すとの斷定を基礎として創製したる斯藥中最も進歩せる特效藥なり	壹劑五圓拾錢（三十日分） 特別製拾圓拾錢（七十日分）
十一、あざとり藥	あざ。入墨。ほくろ。そばかす。なまづ。いぼを無害で綺麗に除去する特效藥なり	試用劑壹圓拾錢　小劑參圓拾錢 大劑五圓拾錢　特別製拾圓拾錢
十二、眞正色白 ベーアス石鹼	多量の色白劑を含めるを以て直に漂白作用を營み皮膚を軟密艷美ならしむる最新發見の英國輸入品也	壹個八拾五錢 參個貳圓參拾錢

産科婦人科
小兒科（宅診午前 往診午後）

女醫 井出茂代

内藤新宿番衆町三一

電話番町三六七七番

リウマチス

▲難病にてあらゆる療法効なく御困りの御方に不思議に早く治る弊店家傳の……秘藥を御報らせします、御全快の皆様から日々澤山の感謝状を下されます一週間分七十五錢送料四錢

東京市淺草觀音沖見世。天勇横通

井筒屋油店

電話下谷……三一五番
振替口座一九六五二番

皮膚科 梅毒科

泌尿器科 腎、膀胱、尿道、睪丸、攝護腺ノ疾患

生殖器科 男女生殖器機能障害

婦人科

診察時間 午前八時ヨリ十二時 午後四時ヨリ七時

日本橋區通二丁目白木屋出口前

ドクトル メヂチーネ 中島鎌太郎

電話本局三九八〇番

花柳病豫防液
ゼニール

專賣特許

旅行家は必ず本劑の携帶を忘れ給ふな

「ゼニール」は花柳病の感染を豫防する未曾有の特効を有し之を装置する安全注入器は携帶至便小形堅牢なる特許品にして秘密使用に恰適す、花柳病の恐るべき害毒を知る諸士の忘る可らざるは此「ゼニール」本店は勿論何處の取次店も大に歡迎す決してきまりわるがり又は僅の金をおしみ給ふな、特に夫に病毒ある妻君は是非此藥を用ひられよ、説明書あり申込あれ

御婦人は藥液ばかりでも間に合ひます

定價

特製（器械・藥液）	一組	二圓
中稱（器械・藥液）	一組	壹圓五十錢
乙種（器械・藥液）	一組	七拾五錢
藥液ゼニールのみ	一瓶	廿五錢
送料	各	八錢

發賣元
精錡水本舖 岸田吟香
東京銀座貳丁目
振替東京四七八七番
電 京六一五番

登錄商標

岸田目藥 精錡水

彼ノ有名ナル米國大博士ヘボン先生直傳ニ係ル眼病一切ノ靈藥ニシテ現代我ガ國ニ於ケル目藥中ノ「オーソリティー」ナリ

一家の經濟は臺所に始まり一國の富强は國民經濟力の發展に竢つ!!

■恐ろしきはサイエンスノ力
■偉なる哉、發明の効益
■木の飯櫃で飯が焚ける器械
■女中を要せずして炊事が出來る器械
■たつた十八分で二升の米が飯になる器械

山崎式蒸汽炊事器は

各地に取次店を募集す詳細は直接照會あれ。定價表は御申越次第送呈す

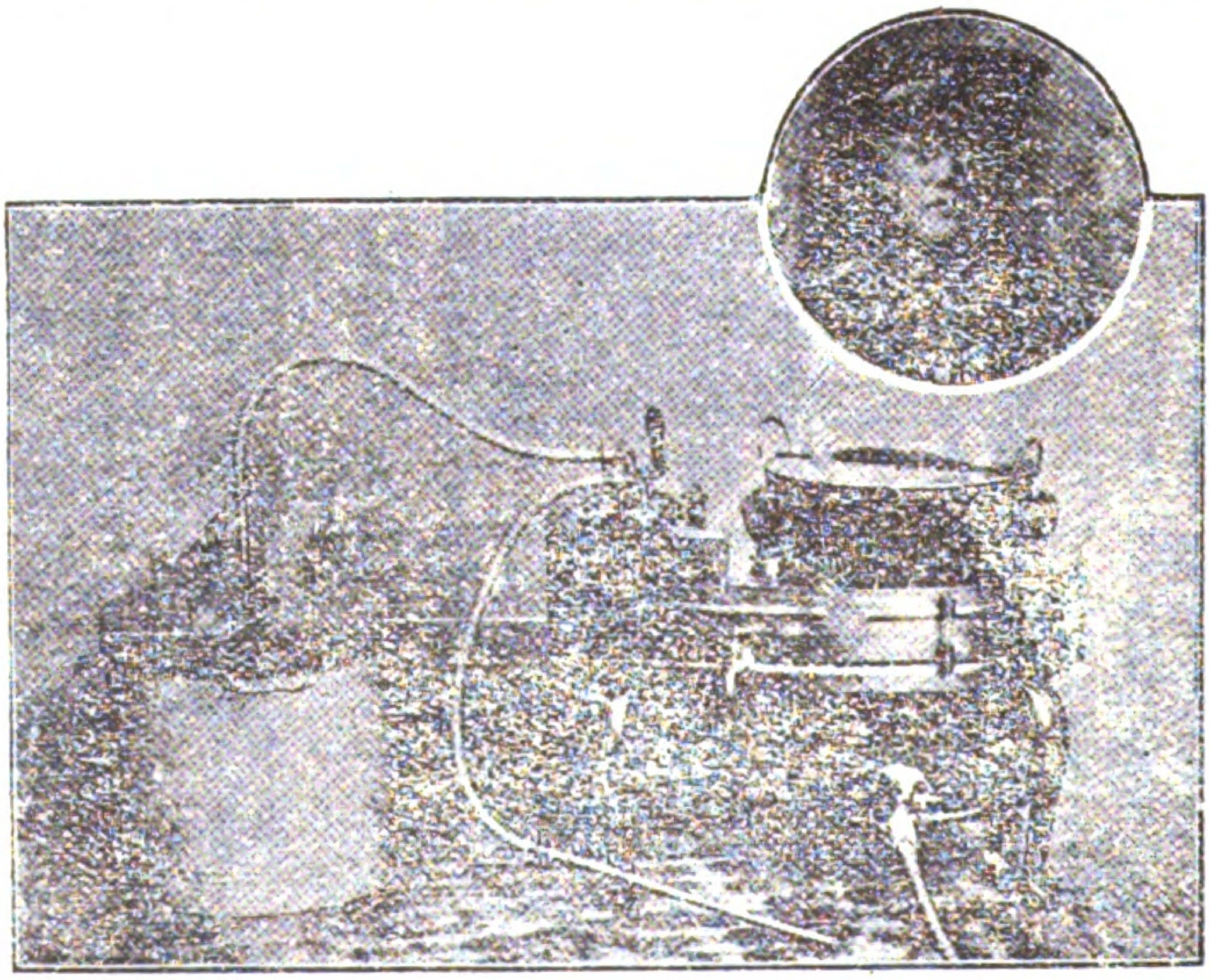
女子大學其他都下各女學校御用

一個の火力で　然かも同時に

■飯が焚け
■汁が煮え
■お菜も煮え
■酒燗も出來る

臺所に革命を來せる發明品

■既に東京市に於ける經濟家の臺所には
■鍋釜竈七輪の類悉く姿を殁して
■山崎式蒸汽炊事器唯一個光り輝やけり
■白耳義の詩人メエテルリンク曰く
■僞きものは凡て皆亡ぶと



東京市赤坂區溜池
演伎座筋向ふ

蒸汽商會

電話新橋二二八九

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

本社取次書籍雜誌

西川光次郎著

ウヰリヤムブース言行錄　定價廿五錢　郵稅四錢

トロー言行錄　同

カンベッター言行錄　定價廿五錢　郵稅四錢

惡人研究（品切）　定價五十錢　郵稅六錢

續惡人研究（品切）　同

神道綱要　定價十錢　郵稅二錢

救世軍　同

心懷語　定價五十錢　郵稅六錢

實踐道德簡易入門（品切）　定價四十五錢　郵稅六錢

偉人の戀物語　定價七十錢　郵稅八錢

新渡戸博士の『修養』評論　定價二十五錢　郵稅四錢

高野重三著

婦人問題早わかり　定價七十錢　郵稅八錢

西川文子著

婦人解放論　定價一圓　郵稅八錢

西川文子著

新しき女の行くべき道　定價五十錢　郵稅六錢

新眞婦人合本（自一號至十二號）　定價郵稅共一圓

西川光次郎主筆

自働道話

▲四六倍形八頁
▲一部郵稅共二錢五厘
▲一年同卅錢
▲毎月十日發行

平易簡明に、實踐道德、新道德を說く雜誌にして、一月號の要目左の如し。

號▲禁酒の方法▲詩人ウオルヅオスの座右銘▲沈靜の時には▲自分に對する責任▲英物と凡物の岐るゝ所▲事に臨みて事後の悔悟を思へ▲善事を爲すにも發明力を要す▲今日は如何なる日ぞ▲郷土の偉人▲私の健康法▲斯くありたいものだ▲雇主と奉公人▲ツマラヌ日と云ふものはない▲不注意の損害▲陽氣な神信心▲背後の聲▲眼の養生▲師友の前に▲健康問答

東京本郷駒込林町二〇六
振替東京二四五五六　新眞婦人社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

嬉しきホ子ームーンにも樂しきスウ井ートホームにも均しく

實母散によりて得たる婦人の健康が第一なり

改正定價表

品目	定價	送料
本法實母散 壹貼	金拾錢	二錢
同 參貼	金參拾錢	二錢
同 五貼	金四拾五錢	二錢
同 七貼	金六拾錢	四錢
同 拾四貼	金壹圓貳拾錢	六錢
同 廿一貼	金壹圓六拾錢	八錢
同 參拾貼	金貳圓拾錢	八錢

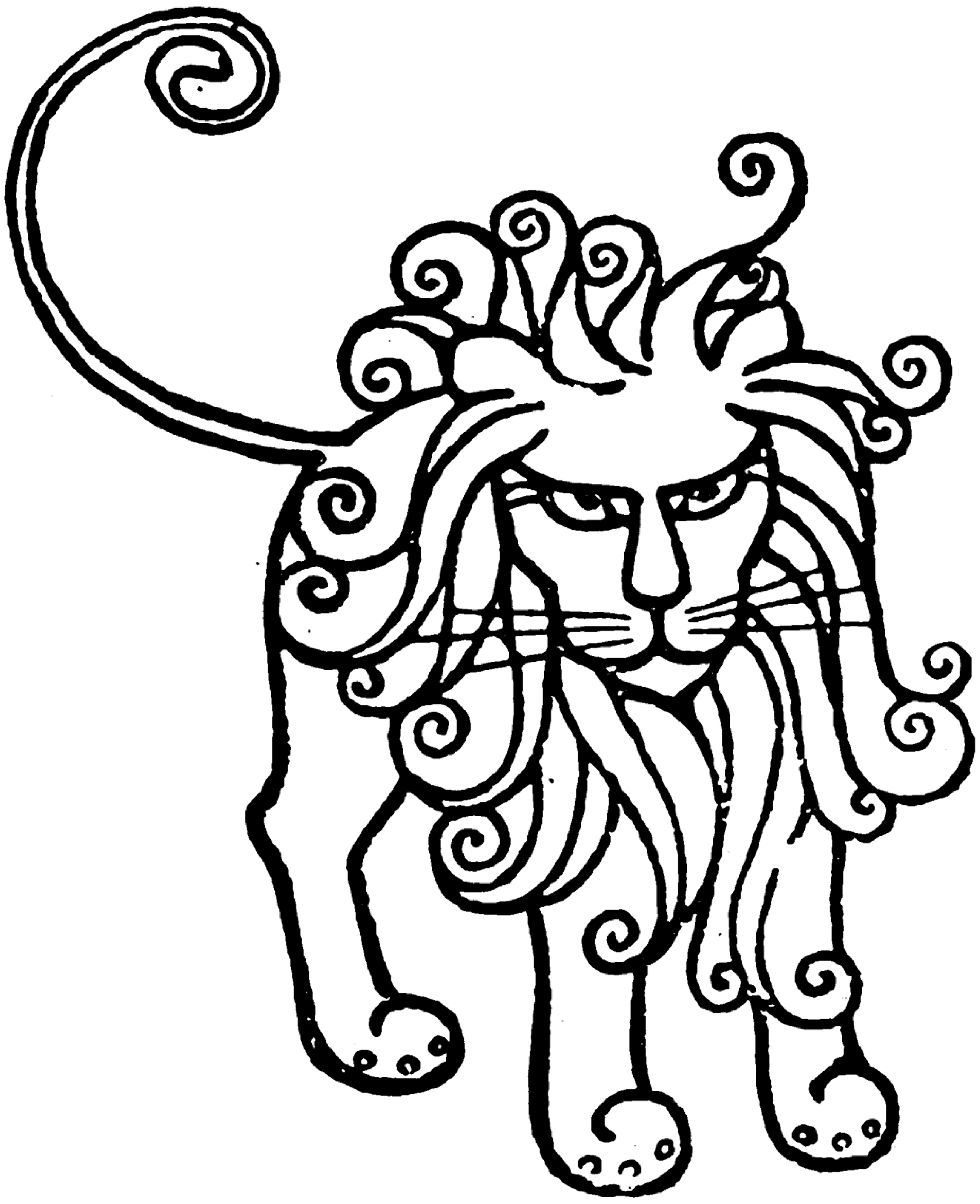
喜谷實母散 主治能効

▲子宮病 ▲血の道
▲白帶赤帶 ▲こしけ
▲下腹痛み ▲足腰冷込
▲氣ふさぎ ▲産前産後
▲逆上頭痛 ▲難産流産
▲月經不順 ▲經期腹痛

本舗 東京市京橋區中橋大鋸町 喜谷市郎右衛門

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

新眞婦人第二十三號
大正二年四月二十六日第三種郵便物認可
大正四年二月二十八日印刷納本
大正四年三月一日發行(毎月一回一日發行)
定價金拾錢



ライオンよ。お前は獸の王だ。そして
齒磨の王だ。お前の行く荒野には、あらゆ
る獸が慴れ伏し、お前の見舞ふ家庭には健
康と平和とが入り込む。お前は動物界の
征服者で、人間界の救濟者だ。
ライオンよ。お前は健康の神！ 平和
の使！ そして齒磨界の王様だ。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA